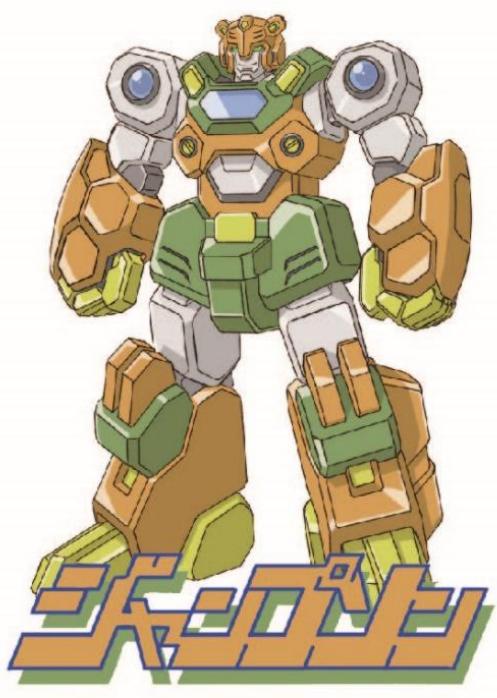


熊取 あれこれ



一般社団法人
くまとりにぎわい観光協会

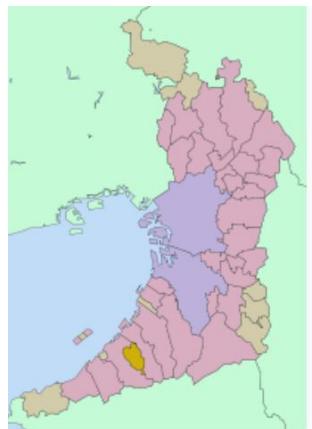
目次

熊取町の基礎知識	P1～P5
熊取の位置・熊取の面積と人口・町章・町の木・町の花・町の鳥・熊取の河川	
熊取の交通・ひまわりバス・幻の「紀泉鉄道」・熊取の産業・熊取の自然	
熊取町の地名の起こり	P5～P6
熊取の歴史	P6～P12
和泉国の誕生・桓武天皇の熊取野遊獵・院の熊取詣・南北朝の内乱・七人庄屋	
熊取の祭り・中喜久太・中盛彬・中瑞雲斎・熊取町の成立・新しい地域づくり	
地場産業	P12～P13
絹織物産業・熊取の農業	
熊取の観光スポット	P14～18
中家住宅・降井家書院・来迎寺本堂・土丸・雨山城跡・まれくす堂・大森神社	
小谷の文政おかげ灯籠・奥山雨山自然公園・永楽ゆめの森公園・永楽ダム・雨山	
京都大学複合原子力科学研究所・長池オアシス・煉瓦館	
熊取の祭り	P19～P21
永楽桜まつり・だんじり祭り	
熊取の寺社	P22～P27
法禪寺・慈照寺・芳元寺・淨見寺・法樹寺・惠林寺・正永寺・正法寺	
興正寺・法願寺・興蔵寺・来迎寺・成合寺・西方寺・大森神社	
公共施設	P27～P28
ひまわりドーム・野外活動ふれあい広場・駅下にぎわい館・夢広場	
イベント	P28～P30
くまとりロードレース・永楽桜まつり・七夕 in 煉瓦館・長池オアシス ハスまつり	
だんじり祭り・くまとり太極拳フェスティバル・くまとりふれあい農業祭	
煉瓦館イルミネーションナイト・くまとり方言カルタ取り大会	
くまとりさんぽ COBIRI の日	
くまとり親善大使	P31
町のマスコット	P31～P32
ジャンプ君・メジーナちゃん	
くまとりにぎわい観光協会	P32
主催イベント・マスコットキャラクター『ジャンプソンとメジナリアン-X』	
熊取方言	P33～P35
熊取ブランド認定品	P35～P41
熊取世間遺産	P41～42

【熊取町の基礎知識】

・熊取の位置

熊取町は、大阪府泉南地域のほぼ中央部にあって、東を貝塚市、北・西及び南は泉佐野市に接しています。また、東・西・南の三方は山地と丘陵に囲まれ、北西方が海岸方面に開いています。



・熊取の面積と人口

町域は南北に長くて東西に狭く、あたかもハートのような形をしています。南北約7,8km、東西約4,8kmで、総面積は17,24km²あります。地形区別にその面積をみると、山地41%、丘陵24%、段丘23%、低地12%の比率となっており、山地、丘陵部分が総面積の約2／3を占めています。

人口の動向をみると、町制施行当時の人口は、9,889人（昭和26年12月）であり、1万人に達していませんでしたが、その後は徐々に増加し、1970年（昭和45年）頃から増加が目立ち始めました。そして南海ニュータウンなどの大規模団地の開発が行われた1975年（昭和50年）以降から急増し、1985年（昭和60年）の国勢調査では33,542人となり、5年前の国勢調査と比べた増加率は、31.9%（大阪府下市町村中最高の増加率）となっています。現在では新しい住民の方が上回った状態となっており、大阪市近郊住宅都市へと大きな変貌をとげてきました。町のホームページでは、熊取町の人口を掲載していますが令和6年11月末現在の人口は42,559人、うち男性が20,524人、女性22,035人、世帯数は18,901世帯となっています。



熊取町旗 1981年11月3日 熊取町章 1951年11月3日
制定 制定

・町章

熊取町章は「マ」の形をあしらった花びらが9で「クマニ熊」を「リ」の形のおしへが10で「トリニ取」を表現しています。そして全体のデザインは町の花であるひまわりをモチーフとし、パワフルに飛躍する熊取の姿を象徴させています。（昭和26年11月3日制定）

・町の木

厳しい寒さを堪えて早春に美しく気品のある花を咲かせる「梅」は、豊かな歴史遺産を誇る熊取の品格と文化知性を象徴するものとして選定されました。日本の美を代表するこの梅のように、熊取も美しく豊かな文化都市を目指します。（昭和51年5月1日制定）



・町の花



夏の強烈な陽射しにも負けずにたくましく育つ「ひまわり」は、試練に耐えて着実に発展する熊取の町づくりを象徴するものとして、シンボルフラワーに選ばれました。なおこの「ひまわり」は町章のデザインモチーフとしても取り入れられています。（昭和51年5月1日制定）

・町の鳥

本町は、奥山雨山をはじめとする里山やため池などに野鳥が多く生息する自然豊かな町です。その自然豊かな「くまとり」を愛する気持ちを育むきっかけづくりとして、町の鳥を選定しました。町内でよく見かけられ親しみがあり、また町の木である「梅」によくとまっている、という理由から、「メジロ」に決定しました。町の新たなマスコットキャラクター「メジーナ」は、この町の鳥「メジロ」をモチーフとしています。(平成23年4月11日制定)



・熊取の河川

河川については、町域に水源をもつ二つの水系が、南から北へと流下します。その一つ見出川は、標高407, 4mの奥山（通称奥山松尾）を水源とし、永楽池から永楽ダムを経て、上高田・下高田・小谷・久保・大宮・小垣内・七山を流れ、そして貝塚市・泉佐野市の境界を流れて大阪湾に注ぎ込みます。もう一つの雨山川は、標高320mの小屋谷山と標高312mの雨山付近に源を発し、成合・朝代・五門・大久保を流れ、熊取の西端付近で住吉川と合流し、佐野川となって泉佐野市域を経て大阪湾に注ぎます。一方、住吉川は前山に源を発し、和田を経て流れる和田川と、また別に前山から久保・小垣内・野田を経て流れる大出川と桐方橋付近で一緒になって流れるもので、このあと五門・紺屋・大久保を経て雨山川と合流します。

いずれも下流部分は他市域を流れます。雨量が少ないこの地域では古くからこれらの河川のいたるところに井堰がつくられ、直接灌漑に利用したり、また、いたんだめ池に引き込み、用水に利用するなど大切に扱われてきました。

・熊取の交通

鉄道は、1930年（昭和5年）6月、阪和電気鉄道（現JR西日本阪和線）が、天王寺と東和歌山間61キロを結んで開通し、町域西端・大久保に熊取駅が設けられ、熊取村にも鉄道が走ることとなりました。運賃は天王寺一東和歌山間96銭、所要時間は特急で48分と当時日本一を誇りました。1965年（昭和40年）に快速電車が停車するようになり、乗降客は年間400万人を超えていました。バス路線は南海電気鉄道泉佐野駅を起点とした南海ウイングバス南部と、熊取駅を起点とした和歌山バス那賀が町域内外を結んでいます。古い街道としては粉河街道（脇浜一王子一大久保一土丸一粉河）と大熊街道（土生一極楽寺一高井城一千石堀城一小垣内一小谷一高田一成合一大木一粉河）が南北方向に通じ、海拔200m付近の断層に沿って形成される内谷と、海拔100m付近で形成される外谷の間道が東西に横断しています。これらの間道や街道は古くは根来寺や粉河寺との結びつきを強め、水間寺や槇尾寺への参詣にも利用されるなど身近な生活道路として大きな役割を果たしてきました。



・ひまわりバス

熊取町では公共施設等への手軽な交通手段として、町内循環バス（通称：ひまわりバス）を南海ウイングバス南部株式会社が運行しています。



このバスは小型低床バスで運行していますので、高齢者や車いす、ベビーカーをご利用の方も、安全に乗降できます。

メジーナちゃん号

つばさが丘方面循環コース、七山方面循環コース

ジャンプ君号

青葉台方面循環コース、自然公園方面循環コース

・幻の「紀泉鉄道」

大阪府貝塚市で鉄道路線を運営する水間鉄道は、昭和2年、清兒から和歌山県の粉河町（現：紀の川市）まで鉄道路線の延伸を計画しました。しかし戦争等激動の社会情勢から立ち消えとなりました。

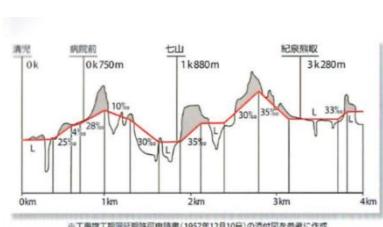
昭和22年に再び新線計画が浮上し、計画を練り直して申請、昭和25年に建設免許を受け用地買収に着手しました。この計画には巨額を要するため別会社として「紀泉鉄道株式会社」を設立する方針となりました。新路線の予定地周辺での気運も盛り上がり、南海電鉄から車両（モハ561形 高野線山線用）やレールなどの現物出資が予定され、貝塚市からも50万円の出資が決まり、粉河町でも水間粉河電鉄期成同盟組合を結成し、関係方面に猛運動を展開するなど建設の機は熟しました。しかし沿線の主要産業である繊維業界の不振や昭和25年に勃発した朝鮮戦争の影響などで、新会社の設立は一時延期しました。昭和26年に水間鉄道は改めて沿線関係町村長へ協力を要請し、翌27年に景気が好転したのを機に、計画以来実に25年の時を要し、紀泉鉄道株式会社の設立をみました。

沿線の測量は、昭和26年から開始し、11月には粉河までの測量を完了しています。昭和28年9月、水間鉄道では紀泉鉄道との連絡駅設置の分岐点となる清児駅の拡張工事に着手することとなり、両社間で調印を終え、工事は昭和30年3月起工、第1期線1工区は清児駅から熊取町の中央部役場付近まで約5kmを昭和30年9月末には開通させることとし、経費1億5千万円は自己資金で充て、第2区熊取町中央部役場付近から犬鳴山までの約6kmの経費約2億円は日本開発銀行から融資を得て着工の予定を立てました。

一方、犬鳴山から和歌山県那賀郡粉河町（粉河駅）に至る約10kmの第2期線区間には和歌山県内田町内に東山田隧道があり、この隧道工事だけで2ヶ年要することがわかりました。

第1期線工区間の貝塚市、熊取町における用地買収は順調に行われ、第2期線工区の用地買収交渉を進めながら、第1期線工区から工事に着手していきました。

このように計画は着々と進められつつあったにもかかわらず、暗礁に乗り上げました。



全線の工事に7億円の予算が必要となったことや、日本開発銀行からの融資が政府の方針で却下されることとなりました。

金融機関の借り入れもすすまず昭和31年に1億円の資本が集まっただけでやむなく第1期線工区の着工を一部区間

で枕木を並べただけで中断。昭和34年3月に水間鉄道は紀泉鉄道を吸收合併し、鉄道ではなくバス転換を計画し、予定線沿いの自動車道路をバスが走りやすいよう整備してもらうよう大阪府に相談していました。

昭和41年には犬鳴山～粉河間を廃線とし、清児～犬鳴間のみを開通したいとの発表を行いました。その後南海電鉄の熊取ニュータウンの開発が決まり、同時に紀泉鉄道第1期区間の清児～犬鳴線は七山付近より、熊取ニュータウンの中央部を通過するように少し東へコース変更され、都市計画道路「泉州山手線」と並走する予定でした。旧コースの見出川橋梁や築堤などは撤去され、宅地や道路になりました。そして熊取ニュータウンの中央部には都市計画道路と一緒に水間鉄道用地も代替確保されましたが工事が再開されることもなく売却されました。

平成元年8月、関西国際空港などの大規模プロジェクト始動等を機に、熊取町と和歌山県の打田町（現：紀の川市）、粉河町が粉河延長線の代替バスを運行するよう



近畿運輸局に要望、これを受け南海電鉄（現：南海ウイングバス南部）と和歌山バス（現：和歌山バス那賀）、そして水間鉄道を加えた3社が共同運行することが決まり平成2年に運行を開始しました。鉄道ではなく道路を走るバスですが、水間鉄道にとっては「五度目の正直」で泉州と紀北を結ぶ公共交通機関を実現できたといえます。

しかし、水間鉄道は会社更生法適用後の平成18年に撤退し、「五度目の正直」はわずか16年で終了しました。



・熊取の産業

和泉木綿として伝統的な綿作は、泉州地方における繊維産業を中心とした地場産業を形成しました。熊取では明治末年になって綿織物業が発展し、その頃からタオルの生産も開始されますが、これらの繊維産業は地場産業として戦前戦後を通して発達してきました。1983年（昭和58年）の統計をみると、繊維関係の工場数は297、従業員数は1,858人となっており、全体の工場数（383）、従業員数（2,657人）の80%近くを占めています。いずれも従業員10人以下の工場が多く、町域いたるところに織機の音が聞こえました。この繊維産業も“石油ショック”後の構造的不況の影響などで工場数・従業員数とも減少傾向にあります。近年、大手電線メーカーの分工場や原子炉関連の企業などの進出がみられ、新たに熊取の産業に加わっています。



一方、商業は大規模店舗の進出もあり、大きな変化がみられる中で、地元商店では商業施設の弱さから地域の購買力を十分吸収しえない現状もあります。1984年（昭和59年）泉佐野商工会議所から分離、設立された熊取町商工会が中心となって商工業の振興、近代化を進めています。

熊取には肥沃な農地が広がり、近世には多くのため池が築かれ、農業先進地として米作や野菜栽培を中心に発達してきました。そこからとれる米は良質で「熊取米」として古くからその名が知られ、特産の「七山すいか」や「水なすび」も有名です。また、明治末年以来、米作の裏作として発達してきたものに、タマネギの栽培があります。晩秋から初冬にかけて植え付けられた耕地一面のタマネギや、そこかしこに建てられたタマネギ小屋は、この地方特有の景色といえます。しかし近年、このタマネギも各地で栽培されるようになり、また、輸入物も出回るようになって価格が低迷し、特産の泉州タマネギも作付けが減少しています。最近では、タマネギにかわる米作の裏作としてキャベツ、施設園芸でのフキ・トマト、また里芋の栽培などをはじめミカンの栽培も盛んに行われるようになり、大都市近郊農業の形態を呈しつつあります。



• 熊取の自然

多くのため池群を抱え、緑豊かな丘陵・山地に囲まれて点在する集落をあわせ、かつては熊取谷といわれた地域が展開し「米は熊取、日根野は小豆、大木・土丸桃（ヤマモモ）どころ」とうたわれていました。このように熊取は米どころとして知られ、また江戸時代の地誌『和泉志』には久保の「白ヤマモモ」が名産としてみられます。

雨山城跡への登山道、永楽ダム、永楽池周辺には今も自然がよく残り、いろいろな樹木が繁茂しています。この辺りは食虫植物、シダ類、水中植物、その他植物群落が豊富で、ほかの地域にはあまりみられない“カラタチバナ”（ヤブコウジ科）や“オオマルバベニシダ”（オシダ科）が自生しています。

熊取町大字野田の雨山（標高312m）の山頂には、平成25年10月17日に国史跡日根荘遺跡に追加指定された室町時代の山城「土丸・雨山城跡」があります。その最高地点には現在雨山神社（雨山龍王社）が鎮座しており、その社前には樹高8.5m、幹回り3.8m、枝張12mを測るひときわ大きなヤマモモがあります。



雨山のヤマモモ

山頂にあって冬の強い季節風の影響を受けるために樹高の低いものの、高地でありながらこれだけの大きさがあることが珍しく、また、巨大な山城が築かれた雨山の中央部にあることなどが評価され、平成28年4月5日に大阪府の天然記念物（植物）の指定を受けました。

このヤマモモの木は雌木で、4月頃に開花し、5月から6月にかけて赤い実をつけます。

【熊取町の地名の起こり】

江戸時代の文化人であった中盛彬（なかもりしげ 1781～1858）は、その著した本『かりそめのひとりごと』の中で“熊取”的地名の起こりについて次のように書いています。

① 「いにしえ内畠村、兎の木川の喬木の枝、くまとりまでもはびこり、その木の下を紀州へ通いしにて、いにしえは和泉、紀州への道はこゝと、をの山超とのみ也。ゆえに木下通ふ道ということにて、木の間どうりといへりしを、後に言語をはぶきて

コマトリといひしを、なお略し誤りてクマトリとさへいひなりたるにぞあらんと思ふなり」

- ② 「熊取谷は、三面は山うちかこみ、西へは遠く海にのぞみたり、その山のあしひきつゞきあるは、たえて又さし出で、くまとれるかたち、一世界をなせし境なれば、隈どり谷といふなり」

さらに、中盛彬は『先代考拠略』という書物の中で、次のようにも説いています。

「クマトリとは、絵を描くにくまをとるといふことあり、この地小景のごとく三方よりさし出て里をかくせるさま絵の隈を取りしに似たるゆへの名なるべし」

古代には熊取野と呼ばれ、中世では熊取荘、近世になってからは、熊取谷と呼ばれています。地名と風土は切り離せないものです。

“熊取”の呼び方から起源を追ってみます。

クマの語意について『古語辞典』では、(1) クマ[曲・隈・隅]、(2) くま[箕]、(3) くま[熊]があり、『広辞苑』でも、(1) くま[隈・曲・阿]、(2) くま[箕]、(3) くま[熊]とあります。

トリの語意については、前出の『かりそめのひとりごと』の「木間通り」の「通り」からトリになったとする説をとりますと、タオリの転として、タオ・トウ(峠)、山と山の間のくぼまっている所、鞍部などの意として「タオリ」から「トリ」となったのではないかとも思えます。また、崖や山のくずれた所をダレ、ダリといいますし、傾斜地などをダレた所と表現することがあり、それが転じてトリになったといえないこともありません。

熊取の地名起源は、断定的にいうことは難しいのですが、自然の地形・地勢からきたのではないかと思われてなりません。周囲を山地・丘陵でクマドリされた谷、あるいは盆地地形から名付けられたのではないかとみられています。

【熊取の歴史】

・和泉国の誕生

和泉地方は、大化の改新以前から河内国造凡河内直の支配下にあり、大化の改新以後も引き続き河内国に含まれていました。しかし奈良時代初期の716年(靈亀2年)河内国から分かれて、大鳥・和泉・日根の三郡をあわせた「和泉監」が設置されました。監とは、国ではないが国に準じる地本官庁で、設置された年に国印に準じる監印が与えられ、三人の書記官が任じられます。ところが設置二十五年を経た740年(天平12年)、再び河内国に併合されることとなります。しかし、それから十七年後の757年(天平宝字元年)に改めて旧和泉監であった三郡が河内国から独立し、和泉国が生まれました。

和泉国を構成していた大鳥・和泉・日根の三郡は、7世紀初めごろからすでに設置されていたと考えられます。一度設けられた郡は、郡司が行政的な役目を果たさなくなても地名の名称として長く用いられました。

日根郡のもとには、近義・賀美・呼喰・鳥取の四つの郷があり、熊取町は和泉国日根郡近義郷に属していたと思われます。この郷というのは、家五十戸で編成された里を、さらにいくつか含むもので構成されています。14世紀ころまで熊取の高田では、高田里という名称を使っていましたが、これは古代の国郡郷里制の名残ともいわれています。

・桓武天皇の熊取野遊獵

804年（延暦23年）の和泉国御幸の様子が『日本後記』に書かれています。それによると、天皇の一行は、この年の10月3日に京都を出発し、難波宮に立ち寄った後、狩獵を行いながら南下し、6日の暮れには日根野に設けられた宮殿に到着したといいます。ここを本拠点にして、しばらく垣田野（泉佐野市貝田）・藪生野（岸和田市尾生周辺といわれています）・日根野で狩りをした後、桓武天皇が10日に政を行っています。この後、天皇一行は紀伊へ赴きますが、その帰途の10月14日には「熊取野」に立ち寄り、再び狩獵を行っています。公式の記録に「熊取」の名が現れるのは、これが最初です。

・院の熊野詣

平安時代末期は社会不安が広がった時代でした。都では摂関家が栄華を極めていましたが、諸国では群盜が出没し、東国では、新たに興ろうとする武士たちの反乱も続いていました。現世に望みを失った人々は、極楽浄土に往生することを願う浄土信仰に心を傾けてゆきました。

四天王寺は浄土信仰の靈地の一つで、人々はここに参詣したり、近くに庵を結んだりして、念佛に明け暮れる生活をする人も出てきました。紀伊の山並みが重なり合った秘境熊野も、そのような靈地の一つで、平安時代半ばごろから貴賤・男女の別なく参詣する人が増えてきました。淀川河口にあった渡辺の津（大阪市東区天満橋付近）を起点に和泉路を南に下り、紀伊の田辺から山中を通って熊野に至る道路を熊野街道といいます。人々はその道筋に祭られた九十九王子を巡拝しながら熊野に参詣しました。京都から熊野への往復はざっと一ヶ月、途中に険しい山道もありましたが、それぞれに願いごとをもって旅をしました。そのような旅の人々を見て、当時「蟻の熊野詣」といわれたほどです。

熊野には、上皇や貴族なども、たくさんのお供を連れて詣でました。白河・鳥羽・後白河の三人の上皇はいずれも仏教を手厚く保護し、また何度も熊野詣を行いました。熊取には、後白河上皇が熊野詣の際立ち寄り、五門の中家を行宮（仮説の御所）としたという伝承があります。古い記録からは確認できませんが、熊取は熊野街道に近く、また王子の一つが祭られていた佐野に近いこともあって、上皇の熊野詣の際に熊取の住人が手伝ったことは当然と考えられるところです。

平安末には、熊取にも屋根瓦をのせた立派な寺が造営されました。その寺は、現在の熊取町公民館がある一帯にあったとされています。発掘調査が行われ、周辺集落とみられる掘立柱建物跡などの柱穴や溝・軒丸瓦などが発見されています。東円寺というお寺であつたらしいのですが、資料上では東曜寺とも記されており、野田神社の神宮寺と考えられています。

・南北朝の内乱

1336年（延元元年）に足利尊氏は光厳天皇を即位させ、自ら京都で幕府を開きました。ところが幽閉されていた後醍醐天皇が吉野に逃れて自分こそ正当な天皇であるとして政治をとったことから、この後60年近く吉野の南朝方と足利尊氏のたてた北朝方の間に内乱が続くこととなりました。そして、和泉地方は南朝方勢力の拠点の一つとして戦乱にまきこまれていきます。

後醍醐天皇は1339年（延元4年）に病死し、その後南朝方の重臣も次々なくなり、南朝方の組織的抵抗そのものは比較的早く終わりました。それにもかかわらず、南朝方の抵抗が長く続いたのは、北朝方の足利尊氏、直義兄弟の争いがからんだことと、全国の武士や土豪らがそれぞれの地方で自分の勢力をひろげるために争い、時々風向きいかんで幕府方に味方したり南朝方についたりしたからです。

熊取莊内の雨山城や日根野村との境界にあった土丸城（槌丸城）は、南朝方と北朝軍とが争奪戦を繰り広げた要城として有名です。雨山城や土丸城は紀州と泉州を結ぶ粉河街道を押さえる山城として、泉州北部の宮里城（和泉市）と並んで戦略上重要な城でした。

1348年（正平3年）北朝方から任命されて和泉国守護に

着任した高師泰は、日根野莊を拠点とする武士、日根野時盛にこの城の固めを命じました。日根野氏は先代から北朝方に参じていた由緒ある武士でした。この後、足利尊氏、直義兄弟の争いから高師泰が殺され、一時的に南朝方が勢力を盛り返し、1353年（正平8年）には雨山城は、南朝の橋本正高の手に渡ります。正高は雨山城を整備し、和泉の南朝の拠点としました。



雨山城跡

正高には、熊取近辺の土豪らも多く味方したらしく、中盛彬の『家記』によると、降井氏の先祖もその一人であったといいます。ところが1369年（正平24年）南朝軍の総帥楠木正儀（正成の子）が南朝の内部の対立が原因となって北朝に帰順、やがて橋本正高もこれに従ったことから、雨山城も落城、再び北朝方の手に帰してしまいました。正高は1378年（天授4年）に再度南朝方に復帰して南朝軍として挙兵し雨山城を奪い返したものの、北朝方の細川頼元、山名氏清らの軍勢に破れて落城。正高自身も1380年（天授6年）に戦死します。その後も雨山城は、南朝方や山名義理によりまたまた戦場となりました。雨山の麓には、江戸時代に建てられた橋本正高の記念碑があります。

・根来大納言盛重

江戸時代初期、岸和田藩主となった小出氏は、関ヶ原の合戦で兄弟が東軍・西軍に分かれて戦いました。東軍に参加した次男吉英の戦功により岸和田藩主の地位は安堵されました。この小出氏が岸和田城にいた当時、徳川家の直臣が岸和田藩近くの堺の奉行や徳川家直轄領の代官に任命されていました。中家出身の根来盛重もその一人です。盛重はもと根来寺の僧で、同寺の子院成真院の院王でしたが、秀吉の紀州攻めの時には、抵抗したその一人でした。しかし、敗戦後はいち早く還俗して根来大納言盛重と名乗り、家康に臣従しました。

このように、根来盛重は徳川家直臣として、関ヶ原の合戦や大坂の陣で奮戦したと伝えられていますが、その時、いわゆる「根来同心」を率いていました。盛重は熊取を含む日根郡の代官を務めていましたが、1619年（元和5年）には、和泉国内にある徳川家の他の直轄領を支配する代官に任命され、この時以後日根郡の支配から離れたといわれています。1625年（寛永2年）には、大和国宇智郡（現在の奈良県五条市あたり）に750石の領地を与えられました。

根来盛重は1641年（寛永18年）86歳で大坂において死去し、根来家は出雲守盛正に受け継がれ、領地も増加しますが本居を江戸に移しました。しかし、この根来家と

熊取の中家・降井家との関係は後々まで続いていきます。

・七人庄屋

1640年（寛永17年）松平康映に代わって岡部宣勝が岸和田城に入部しました。岡部氏の支配は宣勝から数えて十三代、明治まで続きます。この時期に村の支配体制をこれまでの八人による代官庄屋制にかわって、七人庄屋の体制を採用しています。

七人庄屋は、代官庄屋と同じく中世以来の有力農民に系譜をもつ家で構成されており、熊取谷中左近、同中（降井）左太夫、佐野藤田十郎太夫、同吉田久左衛門、樽井脇田右馬太郎、岸和田岸六右衛門、畠中要源太夫の七名が代々この任にあたりました。七人庄屋の任務は、月々の岸和田郷会所に詰めて郡代の諮問に答えたり、領内で問題が起きた場合に調停役を勤めることなどで、藩の民政に深くかかわっていました。また、これら七人庄屋に準じるものとして、江戸時代中期以降にさらに四名の七人格なるものが設けられました。彼らは重大な問題が発生した時に協議に参加し、七人衆の補佐・代役として郷会所への参加を求められたようです。（こうして七人庄屋は、近隣の諸藩で大庄屋と呼ばれているものに相当し、そのため岸和田藩でも大庄屋と呼ばれることもありました）

七人庄屋の一員であった中家と降井家の権威は、岸和田藩内においては大変重く、その職務は、岸和田郷会所に詰めたり、領内の村方騒動の調停、他村の庄屋補佐のための附庄屋といったものでした。しかし、一度は代官（郷士代官）を勤めた家柄ということから、他の七人衆とは異なり、公の職務には代役を差し向けて本人たちが出勤することは少なかったようです。一方、彼らは熊取谷の庄屋を歴任し谷内では、年貢の統轄はもちろん、十五ヶ村の年寄や組頭の決定権や谷内の裁判権までも委ねられていたようです。谷の運営はこの両者に任せられており、五門・野田・紺屋・小垣内・宮・大浦・下高田千七百石は中左近方、大久保・朝代・成合・上高田・小谷・七山千七百石は中（降井）左太夫方に分かれ、藩からの布達にしても村から藩への届けにしてもすべてこの両者を通して行われていました。

このように大きな権力をもつ両家の支配が及び、谷中の結合が強かった熊取谷は江戸時代を通してそのまとまりを維持し続けました。

・熊取の祭り

江戸時代の村人たちの生活は、四季の流れとともに様々な年中行事に彩られていました。大森神社の秋祭りは、近世では旧8月26日に秋の収穫を感謝して行われました。1841年（天保12年）の秋祭りには、谷のハケ村がそれぞれのだんじりをひいて大森神社に宮入りしていましたことがわかります。

この時の記録で製作年代のわかる最も古いだんじりは大久保のもので、1808年（文化5年）の製作であったとみえます。



また和田村、朝代村のだんじりは、にない荷だんじりといわれる肩に担ぐ型のものであったこともわかります。近世では祭りといえども藩の許可が必要であり、ことにだんじりについては華美に流れやすいとの判断から藩の檢約令にも関連して何度も取り締まりを受けているのですが、村人達は村役人に働きかけて思い思いの要求を通していったのではないかと思われます。

1862年（文久2年）には、秋祭り前に村の若者たちがだんじりを是非ひきたいと庄

屋へ申し出をしたという記録があり、遅くとも幕末には「若連中」といわれる若者の組織が各村に形成されていて、祭の重要な部分を担っていたことが推定されます。

旧暦6月10日・11日の夏祭は「灯籠祭」と呼ばれ、祭の起源については確かな記録がありませんが、中家がゆかりの深かった後白河上皇の靈を大森神社に招き慰靈の行事に御輿を担いだのが遠因とされています。最初は中家が選んだ五十四名家の人たちが紺屋山から湊（泉佐野市湊）を経て泉佐野の浜へ渡御されたとの記録がありますが、長い年月のうちに五十四名家に盛衰があり、この制度も崩れ、各字が年番制で担ぐようになったといわれています。しかし、担ぐ順番を無視して絶えず奪い合いが演ぜられ、明治末期ごろに至っては遂に警官と衝突し、負傷者も出たので、その後は御輿を担ぐことが禁止され、庫へ納められたまま現在に至っています。御輿が取りやめになってからは、それに変わるものとして各字ごとに灯籠が担ぎ出されるようになりました。祭礼日も新暦7月11日・12日に行われることになりました。この灯籠祭は戦後しばらく続けられていきましたが、その後は取りやめになり、夏の風物詩も忘れられつつありましたが、1985年(昭和60年)7月に復活されました。



・中喜久太・中盛彬

近世においては、生活に比較的余裕のある上層農民や神官・僧侶らが知識人として、文化の形成に大きな役割を果たしました。近世前期の熊取では、両庄屋が人形淨瑠璃や六斎念仏・興行相撲などの都市の芸能を積極的に招き入れています。

中左近家の喜久太は、電気誘導の実験で有名です。彼は大坂の蘭学者橋本宗吉（1763年～1836年）から、フランクリンが凧を使った実験で、雷が電気であることを証明したことを聞き、自邸内の松を使って雷鳴の時に電気誘導を試みました。惜しいことにその松は十数年前に枯れてしまいましたが、中家の庭に幹はそのまま残されています。この実験は、宗吉の著書『阿蘭陀始制エレキテル究理言原』に「泉州熊取谷にて天の火をとりたる図説」として紹介され、我が国の電気学の発展に大きく寄与しました。



熊取の文化人として特筆すべきは、中盛彬（1781年～1858年）です。彼は中左太夫家に生まれ、長年庄屋を務めるかたわら、様々な研究を行い、数多くの著書があります。天文学などの諸学問を学ぶとともに、和歌・漢詩をつくり、絵筆も取るというような多才ぶりです。また、有職故実を好み、和学・国学を学んで、自分の家の歴史を中心とする

『先代考拠学』や、泉州の地誌『かりそめのひとりごと（苟且独言ほか）』の著書もあります。中盛彬は、郷土の流れをひく家格を誇りとする一方、搖るぎゆく社会の中で藩や村、家の存続を危機感をもって受け止めていたようです。庄屋の任務を全うし、明治維新を見ることなく亡くなったとはいえ、彼もまた時代の危機を鋭く感じ、それに抗った人物でしょう。

また、盛彬が著した『先代考拠学』に、1745年（延享2年）、「もちの木」（降井家のくろがねもち）が存在していたことが記されています。年代がわかる個人所有の樹木としては貴重なもので、町指定文化財（天然記念物）に指定されています。

・中瑞雲斎

中瑞雲斎は、旗本根来伊予守の四男として生まれ、六歳の時に本家に当たる中左近家養子となつた人です。熊取で庄屋を勤める間も尊王攘夷の志を持つ者として知られ、また日夜海防策を講じていました。嘉永年間（1848年～1853年）、南部藩士で鉱山学者であった大島高任を熊取に招き、大砲十三個を鋳造し、根来氏の領地の大和国宇智郡丹原村、紫雲山祥禪寺の境内で試射しました。これは近畿地方における洋砲発射の先駆けとなったといわれています。そのため藩の咎めを受けましたが屈せず、後には京都に出て国事に奔走しました。今その大砲の鋳造のあとははっきりしませんが、熊取中央小学校の東には「タタリ」（たら）、校庭内には「ロノ後」（炉の後）の地名が残っていて、鍛冶屋の地名が残っていて、鍛冶屋の跡と考えられていますが、あるいはここで鋳造されたものかも知れません。

・熊取町の成立

1867年（慶應3年）10月、將軍徳川慶喜は大政を天皇に奉還し、同12月朝廷は王政復古を宣言しました。

1871年（明治4年）4月には戸籍法が公布され、同7月には廃藩置県が断行されました。これにより岸和田藩が廃止され、藩主岡部長職は東京に住むことになり、新たな岸和田



県が置かれました。しかも11月にはこの岸和田県も廃止され堺県に統合されることになります。そして堺県は二五区に分けられ、熊取の各村々は第二一区に属することとなり、この区ごとに戸籍調査が実施されました。

1874年（明治7年）1月には大小区制の施行により、堺県は六大区二九小区に分割され、日根野郡の郡域は堺県第三大区となり、熊取の村々はその中の第二小区となりました。さらに同年7月には、小区の下に番組制が設けられることとなり、小垣内、久保、小谷の各村は八番組に、大久保、五門、紺屋、七山の各村は、九番組に編成されました。八番組戸長には小谷村原文右衛門、九番組戸長には大久保村降井繁三郎がなっています。

1878年（明治11年）7月、政府は郡区町村編成法を制定し、これによって堺県は、大鳥・泉・南・日根郡の四郡を設定し、熊取が属した日根郡と、南郡の郡役所は岸和田に置かれました。1881年（明治14年）2月、堺県は廃止され、熊取の村々も大阪府となり、さらに1884年（明治17年）7月には熊取の村々は数村合併して戸長役場が設けられることになりました。大久保村、五門村、紺屋村、野田村は連合して第二一戸長役場の管轄に、七山村、小垣内村、久保村、小谷村は連合して第二二戸長役場の管轄になり、第二一戸長は北川甚三郎、第二二戸長には奥野武右衛門がなっています。

1889年（明治22年）4月、市制・町村制が施行され、大阪府下では大阪、堺が市制を、その他は町村制をしたこととなりました。熊取では第二一戸長役場と第二二戸長役場は合併されて現在の熊取町の前身である熊取村が成立し、それまでの村々は大字と呼ばれるようになりました。翌1890年（明治23年）5月には府県制、郡制が公布され、大阪府では遅れて1896年（明治29年）4月になって、南郡と熊取村が属していた日根郡が合併して泉南郡となり、ここにようやく「大阪府泉南郡熊取村」が誕生しました。その年の5月、大阪府議員であった小谷村の原勝造が初代村長に就任し、村政の基礎作りにあたりましたが、特に造林事業に功績がありました。

・新しい地域づくり

第二次世界大戦後の1951年(昭和26年)11月3日、熊取村も人口の増加に伴い、いよいよ町制が施行されるようになりました。ここに大阪府泉南郡熊取町が生まれ、初代町長に下中利太郎が就任、同時に町歌・町章も制定されました。

1952年(昭和27年)3月から町の広報誌を発行して町民に配布され、町制施行一周年には町勢要覧が刊行されました。文化財保護行政も進められ、1949年(昭和24年)には和田の来迎寺、1952年(昭和27年)には降井家書院、やや遅れて1964年(昭和39年)には中家住宅が重要文化財に指定され、町ではそれらの修理や管理に努めることになります。熊取も戦後の復興期をほぼ終えて、新しい地域づくりが開始されます。

【地場産業】

・綿織物産業

明治政府は、泉州地域の木綿生産力の高さを背景にして経営されていた旧薩摩藩の堺紡績工場を買い上げて、政府直轄の堺紡績所(堺市戎島町)にして、その保護・育成に力を注いだため、多くの人々の評判となり、見学者が列をなしたといいます。1878年(明治11年)、この模範工場も民間会社育成の方針から民間に払い下げられて、川崎紡績所と改称され、後に泉州紡績会社、岸和田紡績会社の所属となるなど変転を経ています。

このような紡績業の発展の影響を受けて、熊取で綿織物工場が設立され始めるのは、明治30年代の末ごろからで、

1907年(明治40年)には中林綿布工場、合資会社泉南織布工場(創設者 義元一)、木綿製造工場(創設者 宮内長平次)、宮内織布及精米工場(創設者 宮内長平次)など

が発足しています。中林孫次郎によって創設された中林綿布工場は、半木製小幅力織機をいち早く導入し、石油発動機による機械化を進め従業員45名を擁する近代的な工場であったといわれています。1912年(明治45年)には、原文平、中川文三、義元一らの発起により、資本金15万円で、熊取織物株式会社が設立され、国内向けと輸出用の綿布生産を行い、新しく地場産業の担い手が加わりました。

また同年、道明織物工場(創設者 道明市太郎)が創設され、タオルの製造を行い、熊取村でのタオル産業発展の先駆となっています。

タオル産業の発展とともに、やがて紋タオルが生産されるようになりますが、この製織に必要なジャガード機の導入には、七山在住の佐々木米次郎の努力があります。彼はもと染色業に従事していましたが研究心に富み、ドイツからアリザリン染料を取り入れたりして、熊取のタオル産業の技術革新に大いに貢献しました。

第一次世界大戦が始まった1914年(大正3年)頃には、水力発電の建設が進み、電灯が普及し、小工場でもモーターの使用が可能となっていました。熊取でも中小企業の綿布・タオル工場が相次いで設立され、泉南郡では佐野に次ぐ生産量を誇るようになりました。1925年(大正14年)には、熊取の工場数は19となり、その中では織物工場が圧倒的に多く、従業員数は当時熊取の人口5,500名の約15%近くの859名となっています。

第二次世界大戦後は、織物業界も連合国軍の管理下で原糸が割り当てられ、自由な生産も許されなくなりました。その後も朝鮮戦争や「神武景気」、「岩戸景気」など織維業界も活気づく時期もありましたが、熊取町をはじめ零細な工場の多い泉州の織維業界は、



中林綿布工場

好・不況の影響を大きく受けました。

・熊取の農業

明治時代にはいり、農業の面においては、安い綿花やサトウキビが輸入され始めたこと也有って、泉州特産の木綿は明治10年代にはほぼ姿を消し、サトウキビや菜種も衰退の一途をたどっていました。明治政府は初期の工業中心の政策から、農業振興にも力を注ぎ始めました。

泉州は、大阪、神戸、和歌山などの都市に近く、その需要に応じて種々の蔬菜や果実を生産していましたが、なかでもタマネギの栽培は、1883年（明治16年）頃、郡の勧業委員をしていた土生郡村（岸和田市）の坂口平三郎が大阪植物試験場（一説では神戸外国商館）から種子を持ち帰って試作したのが最初といわれ、これを見て田尻村（田尻町）の今井佐治平、大門久三郎らが栽培をはじめ、泉州のタマネギとしてその普及にも努力したといわれています。

熊取で“泉州タマネギ”が栽培されるようになったのもこの頃からと思われます。当初は日本人好みに合わないため売れ行きが悪く、収益率の高い有利な商品作物として重視されるまでには、多くの人々の品種改良、販路開拓などの努力がありました。1897年（明治30年）頃には米とタマネギの二毛作が農家の経営パターンになっています。このようにして栽培されたタマネギは、一般的の食卓にのぼるほか、生産高の半ばはフィリピン、中国、オーストラリアなどに輸出され、また投機性も高かったので、4月から6月にかけて青田師と呼ばれる人たちが田に植わったままの時から買いに来る光景がよくみられました。

1923年（大正12年）に旧信達村（泉南市）の松下喜治郎が換金作物としてサトイモを栽培したところ、生育もよく水田栽培に適していたため、急速に泉州各地に波及し、熊取町でも栽培されるようになりました。雨山水系の豊かな恵みを受け育まれた熊取町のサトイモは、他の産地と比べて細かく、質の高さから料亭などでもよく使われるほか、別名「小芋」と呼ばれ、熊取町の家庭でも親しまれています。

大正末期には貝塚市清児の田中権一が戦友より水ぶきの栽培を習得し、現在の八尾市久宝寺から水ぶき地下茎を導入したのが、泉州地域でのふき栽培の始まりといわれています。

熊取町では1946年（昭和21年）頃からこも掛けにより霜よけ栽培が、1953年（昭和28年）頃からトンネル栽培が行われ、収穫量の増大や出荷の前進につながりました。

1960年（昭和35年）には種茎の冷蔵ハウス栽培により毎年10月から翌6月まで連続して出荷できるようになり、今では全国的にも有数のふきの産地として知られています。

水なすは泉州地域の特有の品種で、泉南の気候風土、食習慣や生活実態に対応して育成されたものと思われます。栽培の歴史も古く、江戸時代初期からと伝えられています。水なすは皮が非常に柔らかく、軽く塩もみし、ぬか漬けにすると翌朝には鮮やかな紫色に仕上がり、その味は絶品です。

これらの野菜については、熊取町の特産野菜として京阪神地方を中心に広く全国の市場に出荷しています。中でもふきやタマネギは、食卓に欠かせない「熊取の野菜」として全国に有名です。



【熊取町の観光スポット】

・中家住宅

1964年（昭和39年）に国の重要文化財に指定された「中家住宅」は平安時代、後白河法皇が熊野詣での時に立ち寄られた由緒ある泉南地方の旧家です。中家住宅は入母屋造り茅葺きで南を正面とし形式技法から江戸時代初期に建てられたと考えられています。建築面積は約450m²で、近畿の民家においても稀にみる広さで、往時の中家の隆盛がしのばれます。



・降井家書院

江戸時代、中家とともに隆盛をふるった降井家の書院は、地方の庄屋の邸宅に付属する書院の好例とみなされ、1952年（昭和27年）に国指定の重要文化財になりました。かつては2,500坪の敷地に台所、広間、書院、土蔵、廁等の邸宅を構え、射場、馬場も備えていました。江戸時代初期に建てられたとされる現存の書院は、数寄屋風を加味した造りで、江戸時代の熊取の庄屋の生活を垣間見ることができる貴重な歴史建造物です。



また、令和6年に貝塚市の「蒿原とちのき谷」泉南市の「金熊寺」「信達神社とともに日本遺産「葛城修験-里人とともに守り伝える修験道はじまりの地」の構成文化財として追加認定を受けました。

日本遺産「葛城修験」のストーリー（概要）

大阪と和歌山の府県境を東西に走る和泉山脈、大坂と奈良の府県境に南北にそびえる金剛山地。総延長112kmにおよぶこの峰々一帯は「葛城」と呼ばれ、修験道の開祖と呼ばれる役行者（ぎょうのえんじや）が初めて修行を積んだ地であり、世界遺産の吉野・大峯と並ぶ「修行の二大聖地」と称されています。そしてその修行にはいつの時代も、この地に暮らす人々との深いつながりがありました。

・来迎寺本堂

草創は詳らかではありませんが、寺伝によればもとは天台宗に属し、後に真言宗に移り1689年（元禄2年）には、曹洞宗梅溪寺の末寺となり、円覚寺来迎寺と称しました。本堂は1329年（嘉歎4年）正月に建立されたと伝えられています。



[鬼瓦]



1424年（応永31年）の刻銘があるものが最も古いもので、現在は降ろされて保存されています。現在使用されている大棟の鬼瓦には「享保戊戌三月吉日、佐野小川久右衛門尉」、棟冠瓦には「天明二年壬寅四月佐野小河権吉」とへら書きされています。

応永三十一年銘ある鬼瓦

・土丸・雨山城跡

南朝軍と北朝軍が争奪戦を繰り広げた要城として有名な雨山城。紀州と泉州を結ぶため戦略上重要であったこの城は、今では南北朝時代の面影もなく、静かにその跡には雨山

神社が残っています。

「土丸・雨山城跡」は、橋本正高などの武将が、日根荘をはじめとする周囲一円を統治するため、紀州と和泉を結ぶ粉河街道を要衝に位置する本町の「雨山」と泉佐野市の「城の山（じょうのやま）」の二つの峰を結ぶ広い範囲に築いた城で、南北朝時代から



戦国時代にかけての城郭の遺構と、瓦や土器などの遺物が現在も良好な状態で残されていることが評価され、2013年（平成25年）10月17日付官報で国史跡の指定を受けました。

・まれくす堂



歯の痛みを止め、子授けのご利益があるとして信仰を集めているお堂。小高い丘の上に建ち、広さは一間四方と小さい。地域の人々は赤ん坊が生まれるとまず、この地蔵にお参りをしたといわれている。名前の由来は、昔お堂のそばに「まれに見る大きな楠」があったという説。また「まれくす」という豪農が建てたからという説などがあります。

・大森神社

中世、雨山神社・野田神社とともに熊取荘の三社として信仰を集めた大森神社。1582年（天正10年）に根来盛重によって再建されました。主祭神は菅原道真、事代主命が祀られています。明治の合祀によって五十余柱となりました。秋祭には各地区の地車が宮入りをします。



・小谷の文政おかげ灯籠



1830年（文政13年）に造られた灯籠で、大阪府下で一番南に位置する。名前の「おかげ」は「おかげ参り」からきたもの。おかげ参りは伊勢神宮に多くの人が参詣することを指します。泉州地域の伊勢信仰を知るうえで貴重な文化財となっており、熊取町指定文化財に指定されています。戦前までは灯籠の灯明が消えないようにするために輪番制が敷かれていました。



・奥山雨山自然公園

奥山雨山自然公園は、熊取町の誇る森林公园で、1984年（昭和59年）7月に完成しました。その美しさは「水源の森百選」にも選ばれているほどで、特に永楽ダム周辺は桜の名所として年間10万人の人出で賑わっています。約130ヘクタールもの広大な敷地には、アカマツなどの天然林が豊かに繁り、「つつじの広場コース」「もみじの広場コース」「展望台コース」「東ハ



「イギングコース」「西ハイキングコース」の5つのハイキングコースは、それぞれ特色があり気軽に自然と触れ合えるコースとして親しまれています。また、自然公園にある2箇所の展望台からは、和泉葛城山系や関西国際空港などの雄大な眺望が楽しめます。

・永楽ゆめの森公園

“元気いっぱい！！夢いっぱい！！みんなが楽しめてみんなに誇れる公園”をコンセプトに、整備を進めてきた「永楽ゆめの森公園」が2015年（平成27年）11月21日（土）にオープンしました。

この公園は、甲子園球場の約4倍（約5ヘクタール）の広さがあり、大型複合遊具や府内最大級の大型すべり台をはじめ珍しい遊具や健康遊具、さらにはスケートボード広場もあります。その他にも、自然の地形を生かした散策路や関西国際空港、淡路島及び明石海峡大橋などを見渡すことができる見晴らしの丘などもあり、子どもから高齢者まで楽しめます。



・永楽ダム

永楽ダムは、1965年（昭和40年）に着工し、1968年（昭和43年）に完成しました。このダムは見出川の上流に灌漑用水・上水道水を確保するため築かれ、熊取町の重要な用水源となっています。

また、大阪みどりの百選などに選定されるなど緑豊かな自然と桜の名所となっています。

・雨山

標高312メートル、山頂には雨山神社が鎮座し、古くから雨乞いの山として信仰を集める熊取の象徴的な山です。旱魃時には村人が雨乞いのために登りました。現在でも9月1日、雨山の麓の成合地区が「八朔祭」という行事を行っています。また、その社前

には大きなヤマモモがあり、2016年（平成28年）に大阪府の天然記念物（植物）の指定を受けました。（P5参照）



・京都大学複合原子力科学研究所

永楽ダムの桜とともに、熊取町の花見のスポットです。毎年4月上旬の土曜日に、通常は入場できない施設見学（原子炉棟や廃棄物処理棟など）と翌日曜日に、桜の一般公開が催されます。



・長池オアシス



人々の暮らしを支えるため池を、水と緑に囲まれた親水空間として整備した、熊取町を代表する憩いのスポットです。

水生植物ゾーン、オアシス農園、親水広場などがあり、身近な自然に触れ合えます。「長池」「下池」の2つのため池と3コースある「ウォーキングコース」「長池公園」「水生植物ゾーン」また、弥沢池を埋め立て設置した「オアシス農園」等から構成されており四季折々の美しい花が咲き、珍しい野鳥や昆虫なども生息しています。



2009年（平成21年）には、大阪ミュージアム構想ベストセレクション（みどり自然部門）に選定され、2010年（平成22年）には、農林水産省全国「ため池」百選に選定されました。

7月のハスの花の最盛期に開催される「ハスまつり」では、ハス茶、ハスの実ぜんざい、ハス酒が楽しめます。



舞妃蓮

漁山紅蓮

長池妃蓮

懶白蓮

・すまいるズ 煉瓦館

煉瓦館は、もともと綿布工場として1928年（昭和3年）頃に建てられたものです。近代化産業遺産として貴重なこの建物は煉瓦壁を当時のままに残し、2005年（平成17年）に煉瓦館として生まれ変わりました。

現在残る建物は、西棟（煉瓦館本体）、ボイラー室（事務所）、東棟（くまとりスクエア）、事務所棟（コミュニティ支援室）、倉庫棟（染め工房など）があります。

さらに、煉瓦館前の公園部分には、明治末期に建てられた旧工場がありました。現在はその一部である受電室が残るのみとなっています。

1992年（平成4年）に工場としての役目を終えることとなりましたが、一部は町指定文化財として、また2006年（平成18年）には経済産業省の近代化産業遺産、2009年（平成21年）には大阪ミュージアムの登録物に認定されるなど、地域文化の発信基地、生涯学習の拠点など地域のシンボルとして新たな命が吹き込まれました。



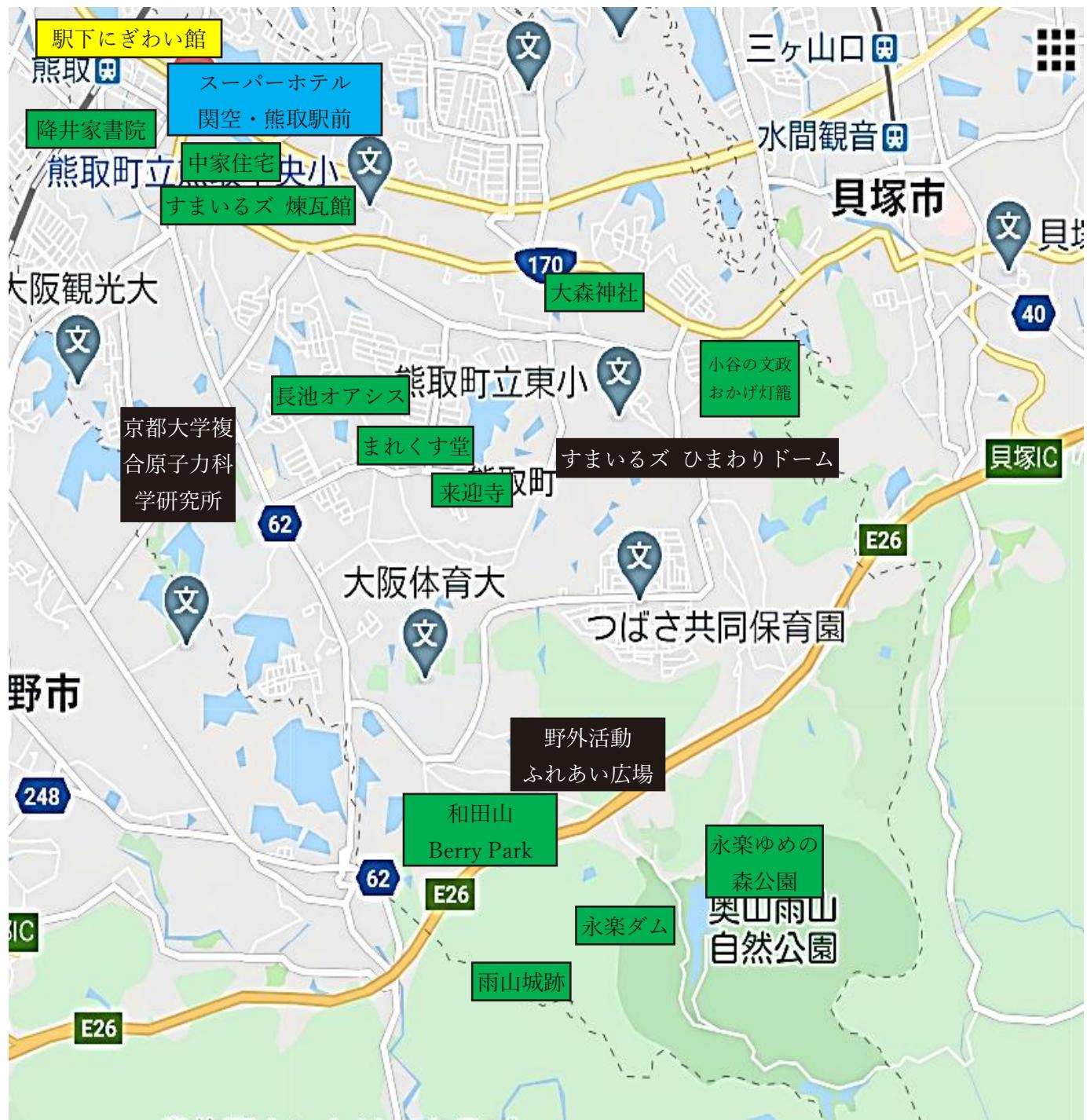
・和田山 Berry Park

2019年夏にNPO法人グリーンパーク熊取が、熊取野外活動ふれあい広場前にブルーベリー農園「和田山 Berry Park」をオープンしました。夏の収穫時期（7月上旬か

ら8月下旬)には、ブルーベリー狩りが楽しめます。またこちらで栽培されたブルーベリーを使ったコンポートやジエラート、地ビール等が熊取ブランド認定品「くまとりやもん♪」に認定されています。



【熊取町の観光スポット】



【熊取町の祭り】

- ・永楽桜まつり



桜前線が北上する、毎年3月下旬には永楽ダム周辺にもお花見シーズンが到来します。熊取町縁と自然の活動推進委員会では、来園者の皆様に桜の優美な姿を堪能していただくため、桜の開花時期に合わせて、永楽ダム広場に提灯を吊り、一部の桜の木をライトアップします。

また、桜まつりのイベントとして、模擬店の出店もあり、多くの方が訪れます。

- ・だんじり祭

だんじり祭は長い歴史を持つ行事であり、五穀豊穣を祈願し、豊作に感謝する秋の祭礼です。

祭は氏子地区より11台の地車が曳き出され、氏子が挙って10月の2日間にわたって催します。初日は大森神社への宮入、境内の舞台を三周し神殿の定位置に地車を停め神主によるお祓いを受け御幣を授けられます。2日目は熊取駅前をパレードします。

本町域においていつから地車が曳き出されるようになったかは、明らかではありません。



しかし中家文書の中にいくつかの地車に関する資料があり、今から160年余り前の1841年（天保12年）には、五門・小垣内・宮村・大久保・小谷・七山・和田・朝代の8ヶ村が地車を所有していたことが知られています。この8台の地車のうち、朝代・和田の地車は荷地車でした。

また、だんじり祭において「子供俄」（こどもにわか）も一緒に演じられていたようです。

現在、各地区の所有する地車の大部分は、明治から大正時代に製作されてもので、いずれも緻密な彫物をほどこした優秀な地車です。彫物には、難波戦記・太閤記・忠臣蔵・太平記・源平盛衰記などの名場面が多く刻まれています。

【町内11地区の地車】



☆朝代地車

朝代の現在所有の地車は大正11年、当時5,500円の大金(1,000円で木造の大きな家が建ったという時代)を要し、地元朝代出身で、名工絹井嘉七門下、「朝市」を名乗る朝代市松大工棟梁により、彫物責任者関東彫りの一元林峯によって造られた地車で現岸和田市大工町の地車とは兄弟地車といえます。

☆和田地車

和田の地車は大正15年9月和田が新調した地車で、当時2,550円で新調している。大工棟梁は「絹屋」事、絹井楠太郎・彫物責任者は玉井行陽・助は、金山源兵衛等の作品です。

昭和57年秋には60年ぶりの大修理が行われました。小型の地車であるが、土呂幕三方の彫物は、なかなかの良作です。



☆大久保地車

大正7年の新調という岸和田市宮本町の先代地車です。

大工棟梁は「大喜」こと小川喜兵衛、彫物責任者は上間庄平、補助は伊藤松吉等です。大正8年に宮本町から6,500円で購入しています。

武将の持ち物は、付け木ではなく、大多数は一木彫で頑丈に細工され、味わいのある彫がなされています。



☆紺屋地車

大正10年に紺屋が新調した地車で、大工棟梁は「大若」こと高橋門下の森某、彫物責任者西本舟山が明治甚五郎こと櫻井義閑名匠を見本として見事に手掛けられています。昭和58年に、大修理が行われました。



☆五門地車

紺屋の地車と同じく、大正10年の新調で、岸和田市筋海町の先々代車です。大工棟梁は紺屋と同じで兄弟地車といわれています。しかし、彫物責任者は、開正藤が一生一代の仕事といわれ、他の熊取の地車にはない味わいがあります。令和2年5月に、新調しました。



☆野田地車

野田地車は、屋根型細工よりも、和泉彫・浪花彫などの巨匠が各自の分担で、それぞれ得意とする彫物細工をして作られた地車です。

岸和田堺町先代地車であり、明治20年に手斧始め、完成は22年5月という永い年月を費やした名作です。



☆七山地車

大正11年の新調といわれる岸和田市筋海町の先代地車です。大工棟梁「久吾」事久納久吉、脇棟梁は実弟の久納幸三郎、彫物責任者開正藤、助は西本舟山と正藤跡目息子開正珉（謙次）です。屋根細工は名工久吾が苦心した大屋根枠合上部に唐破風という唯一の地車で、他に類を見ない形態です。

☆小谷地車

平成26年に新調された地車で、大工は植山工務店が制作。切妻屋根に三手先組物の端正な姿見は先代地車を世襲し、彫物は地元縁起の題材を多数取り入れ、枠合正面に「桓武天皇熊取野遊獵」、後面に小谷縁起「辻之井」などが、岸田恭司師により躍動感あふれる、見事な構図で彫られています。



☆久保地車

昭和9年に久保地区が新調したもので、大工棟梁は植山宗一郎であり、彫師は数多くの人の手がかけられており、松田正幸をはじめ、石田範治、後藤更星、吉岡喜代志等の若手彫師が中心となって作られたものであり、特に土呂幕は見事です。



☆小垣内地車

平成18年1月2日の町会総会で新調委員会が発足し、同年4月に井上工務店に製作を依頼したものです。彫物については木下彫刻工芸が手掛け、4年の歳月をかけて平成22年4月に完成しました。今回新調した地車は、泉州にある地車の中でも二つとない欄干と命棒に希少価値の黒柿が使われていて遠目にも小垣内の地車だと一目でわかります。平成22年5月4日に入魂式、お披露目曳行、並びに記念式典が行われました。

☆大宮地車



昭和8年、大宮が新調した地車で、大工棟梁は（大宗）こと植宗一郎、彫刻は京彫の吉岡義峰です。

大屋根は新調時より軒唐破風（二重破風）であり、纖細かつ豪華な彫物や地車の大きさなど昭和を代表する地車といわれています。平成21年有限会社植山工務店において大修復を行い新調時の面影を大切にした見事な地車です。

【熊取の寺社】

・法禅寺

所在地 熊取町大字大久保



宗派 臨済宗妙心寺末

本尊 薬師如来



(←筆塚)

山号 正宗寺

寺歴については、1888年（明治21年）4月の『寺院明細帳』に「永仁年中（1293～98）ノ創立ニシテ村内ノ中央ニ在リタリ、宝暦甲戌年（1754年）三月西山ニ移転ス、嘉永庚戌年（1850年）四月再ヒ之ヲ修造ス」と記されています。本尊の薬師如来は、もと野田にあった野田山東曜寺の本尊で、春日仏師の作と伝えられています。

本堂は、1850年（嘉永3年）4月に峯謙和尚により再建されたものでしたが、1982年（昭和57年）に鉄筋コンクリート造りで再建されています。もとの本堂の欄間にはめられていた竜の彫物はそのまま保存されており、「正徳元年（1711年）和泉加右衛門作」と伝えられています。

また、門内には筆塚があります。この塚は日根郡中庄湊浦（現泉佐野市湊）の海鮮問屋里井家の当主で、江戸時代の末、当地方の文人として知られた里井浮丘のものです。浮丘は当時の住職であった竺峯和尚と深く交わって、たびたび当寺を訪ねたということです。そのため浮丘の死後当寺に筆塚が作られたといわれています。筆塚は花崗岩で、表面は二十行、裏面に十九行の銘文が刻まれています。

・慈照寺

所在地 熊取町大字五門



宗派 臨済宗妙心寺末

本尊 觀世音菩薩立像

山号 仏日山

1888年（明治21年）の『寺院明細帳』に、「創立年月不詳、明暦年間中左近森（盛）行堂宇造営シ、盛行法名慈照院ト称スゆえ、慈照寺ト称シ、盛行中興開山ナリ」と記されています。また、1886年（明治19年）3月の『寺籍調査表』には、1575年（天正3年）中左近盛行創立と記されていますが、中盛行は、中家系図によれば第十八代の当主であり、1658年（明暦4年）に59歳で没していることから、天正3年の創立は誤りであるとの見方もあります。しかしいずれにしても、中家の菩提寺として建立され、盛行によって中興されたものといわれています。以前は本堂の裏に中家歴代の墓所がありましたが、現在は五門墓地に移されています。

・芳元寺

所在地 熊取町大字紺屋
宗派 浄土真宗大谷派
本尊 阿弥陀如来立像
山号 福井山



寺歴については、1888年（明治21年）四月の『寺院明細帳』に、「由緒、大永六丙戌年十一月創立芳元坊了道開基、因テ芳元寺ト称ス」とあります。また『大阪府全志卷之五』には、「開基了道は初め坂上田平と称し、紀州根来寺に加担して戦場に馳駆せしも、天正三年剃髪して了道と法名し、一字を創立せしもの即ち当寺にて、義元坊と称し、真言宗なりしが、天正八年二世了海本願寺顕如上人に帰依して改宗し、更に福井山芳元寺と改め、十一世善応に至り宝暦10年東本願寺末となる。」と記されています。この寺には、1802年（享和2年）在銘の半鐘があり、また戦前には、二八日講・尼講がありました。

・淨見寺

所在地 熊取町大字七山
宗派 浄土真宗大谷派
本尊 阿弥陀如来立像
山号 七宝山



当時の過去帳によれば、淨見坊義風—1633年（寛永10年）三月九日没、を開基としていますが、明治初年の『金涼山願泉寺本末一派寺院明細帳』には「慶長四己亥年（1599年）三月創立開基淨仙」とあり、また、『大阪府全志卷之五』には「尾張国知多郡布土村の医師本多佐内なるもの剃髪して淨仙と号し、天正元年一寺を建立せしもの即ち当寺なり。」と記されています。1684年（貞享元年）に山号、寺号の公称を許可され、江戸時代には貝塚御坊願泉寺の末寺でした。

開祖本多佐内は精神病者の治療に当たるため、1599年（慶長4年）に現在の七山病院の前身である爽神堂を創設しました。

・法樹寺

所在地 熊取町大字七山
宗派 浄土宗知恩院末
本尊 阿弥陀如来立像
山号 七重山



創建については明らかではありませんが、正誉上人、1711年（正徳元年）没、を中心興開山とし、浄土宗の寺院として整備されました。江戸時代には泉佐野市の上善寺末で、寺号はもと宝樹寺と号していましたが、後に宝を法に改めたといわれ、また院号も輝光院と号しています。

本堂の脇壇には地蔵菩薩座像が観音菩薩座像とともに安置されており、胎毒に効くとい

われ信仰を集めました。

春秋の彼岸と八月七日の施餓鬼会には古老らによる鉢講が行われますが、他にも念佛講が維持されています。

・惠林寺

所在地 熊取町大字久保
宗派 臨済宗妙心寺末
本尊 阿弥陀如来座像
山号 松雲山



1888年（明治21年）四月の『寺院明細帳』には1668年（寛文8年）三月の創立で、1789年（天明9年）九月の再興と記されています。開山は法蓮社界上人で、本堂の脇壇に安置される三三ヶ所觀音像は、もと久保村の觀音堂に安置されていたものです。

境内には、牛神社の石祠が祀られており「天明四年甲辰三月」の年記があります。

・正永寺

所在地 熊取町大字久保（大宮）
宗派 浄土真宗本願寺派
本尊 阿弥陀如来立像
山号 法水山



真言宗の僧宗円が蓮如上人に帰依して改宗し、1504年（永正元年）3月現在地に一宇を建立、「南無阿弥陀仏」の六字名号を安置したといわれています。寺号は永正の年号を転用したもので、天文年中（1532～54年）には二代孝文が証如上人より開基仏画像を賜ったとされています。本願寺の東・西別立によって東本願寺に属しましたが、第10世義瑞の時に西本願寺へ帰参を願い1811年（文化8年）2月に転派しました。この寺は、泉州地方の西本願寺派の寺院によって組織されている泉州御花講に属しています。

・正法寺

所在地 熊取町大字小垣内
宗派 曹洞宗永平寺末
本尊 釈迦如来座像
山号 龍泉山



『拾遺泉州志』によれば、和泉国の四長者の一人である「おほがち長者」の妻が建立した寺院で、「めでら」と呼ばれたといわれています。当寺はもと白地谷にあって、七堂伽藍を備えた寺院で、根来寺の支配下にありました。1585年（天正13年）の根来寺攻めの時に兵火にみまわれ焼失しました。その後、1593年（文禄2年）光禪文威が再建した小庵に来住し、後の1619年（元和5年）に岸和田城主松平周防守に願い出て現在地に移転しています。1650年（慶安3年）に無住となりましたが、この時に後任の住職は、岸和田城岡部美濃守によって、岸和田の梅溪寺を中興した燈外和尚を住職と定めています。その後、藩主岡部氏は三度も来寺し、1656年（明暦2年）には御紋拝領の恩典にあずかったといわれており、この寺に伝わる岸和田城主岡部宣勝公画像は、岸和田市の泉光寺所蔵のものと同じ画像であるといわれ、1808年（文化

5年)の紀年があります。

・興正寺

所在地 熊取町大字久保(下高田)
宗派 臨済宗妙心寺末
本尊 聖観音菩薩立像
山号 慈福山



1888年(明治21年)四月の『寺院明細帳』には、「当寺ハ寛文五年(1665年)甚平ト申者、聖観音ノ像ヲ負担シ来テ茲ノ地ニ留リ、堂宇ヲ創立シ、彼ノ觀世音菩薩ヲ本尊ト成シ、的道禪師ヲ請シ開祖トナシ、慈福山興正寺ト号シ、今ニ負塔座ト称シテ供養セリ」と記されています。

寺所蔵の涅槃画像は、縦218cm、横140cmの紙本着色のもので、画像の左右に「釈氏 七十二世 済水派下埜納中天景團欽拝筆」の墨書があります。

・法願寺

所在地 熊取町大字野田(朝代)
宗派 曹洞宗永平寺末
本尊 薬師如来座像
山号 東光山



1888年(明治21年)の『寺院明細帳』には、1706年(宝永3年)の創立て燈外和尚開基とあります。しかし、中家文書の1539年(天文8年)の文書に「朝代宝願寺」の名がみられることから、創建はそれ以前であることが明らかです。法願寺は、1585年(天正13年)の根来攻めの時に兵火にかかり焼失したと伝えられており、江戸時代に入って再建されたようです。

・興藏寺

所在地 熊取町大字小谷
宗派 臨済宗妙心寺末
本尊 薬師如来座像
山号 法雲山



1282年(弘安5年)に法灯国師によって建立され、もと小谷山高倉寺といいました。その後1585年(天正13年)根来寺攻めの兵火のため焼失しましたが、1590年(天正18年)に降井左衛門尉盛明が再興して現在の寺号に改めたといいます。門前には、おかげまいりの人々によって建立された泉南地方では珍しい「おかげ灯籠」があり、明治末期の神社合祀の時に移建されたようです。

・来迎寺

所在地 熊取町大字久保(和田)
宗派 曹洞宗永平寺末
本尊 阿弥陀如来座像
山号 円覚山



この寺の草創は明らかではありませんが、寺伝によればもと天台宗であったものが、のち真言宗になり、1689年(元禄2年)には曹洞宗梅溪寺の末寺になったといわれています。

本堂は、1329年（嘉暦4年）沙弥隨善、沙弥妙法、完平四郎、宗三郎行貞、紀光女等が建立したといわれています。

もと雨山城にあって橋本正高がハ大龍王殿と称し、朝夕武運長久、繁栄安泰の祈願堂としたものといわれており、後年になって現在の位置に移したとの説もありますが明らかではありません。

本堂は、鎌倉時代の様式をよく備え、三間四方（約30m²）の小堂で、屋根は寄棟造、行基葺、基壇はなく野面石上に柱を建て、三方に濡縁を設けています。内部は中央奥寄りに四天柱を建て、正面に格狭間のついた漆塗りの須弥壇を設け、主要部は丹塗りです。また正面中の間に戸口、背面に半間の出入口があって他は塗壁で一本のたる木が軒先から内部まで通り、天井の四隅の梁がエビ虹梁という珍しい建築です。内部は煤気が多く、燻った状態からこの本堂は当初護摩堂ではなかったかと推定されます。

1949年（昭和24年）、国の重要文化財に指定され、1959年（昭和34年）9月から約1年間をかけて解体修理が行われました。

• 成合寺

所在地 熊取町大字野田（成合）

宗派 曹洞宗永平寺末

本尊 釈迦如来像

山号 普陀山

創立についての詳しいことはわかりませんが、中家文書の1494年（明応3年）の土地売券に、成合寺の僧の名前が見られるので、それ以前の創立であることは間違いないありません。当寺は戦国の争乱期に衰微し、観音堂一宇を残すのみとなりましたが、1688年（元禄元年）泉州佐野浦の豪商食氏が愚白和尚を開山として再建しました。

愚白和尚は、肥後の人で月舟和尚に師事し、黄蘖木庵と親しく、加州前田侯に請ぜられて、瑞龍寺に居ること三年、その後泉州に移り、岸和田藩主の敬仰を受け、当寺や泉佐野市の惣福寺を再興しました。

境内に火消石と伝えられている庭石があり、この庭石には次の伝説が伝えられています。

「ある日、愚白和尚が村人に手桶を持って大急ぎで寺に集まるようにと知らせた。村人が寺に集まると和尚は、能登の総持寺が火事になっているからみんなの力を借りたいといって、村人に庭石に水をかけてくれと言った。石に水をかけると石から激しく煙が上がり、水は石に吸い込まれていった。その後、能登の総持寺から、過日の火事の時はたくさんの人々に火消しを手伝っていただきありがとうございましたと礼に訪れた、とう。」

• 西方寺

所在地 熊取町大字野田（成合）

宗派 曹洞宗永平寺末

本尊 阿弥陀如来座像

山号 安養山

当時の縁起によると、草創の年代は明らかではなく、1553年（天文22年）に熊取谷の住人西左近・若左近が再興し、石塔を建立しています。その後無住でしたが1667年（寛文7年）に村人が集まり、草庵を起こして梅溪寺（岸和田）末となり、達山卓円を開山とすると記されています。

この寺にある大般若経600巻は、もと野田に所在した東円寺の什物で、東円寺廃絶後当寺に移されたものです。

・大森神社

所在地 熊取町大字久保（大宮）

祭神 菅原道真、事代主命他

創建の年代は明らかではありませんが、平安時代中頃に編述されたといわれる『和泉国々内神名帳』日根郡の部に記載される「従五位上大社社」が当社ではないかと考えられています。



古くは穂輪明神・大宮と呼ばれ、雨山神社・野田神社とともに熊取谷の三社として村人の信仰を集めました。日照りの年には神職が斎戒沐浴（心身を清める）してこの三社に降雨を祈るとともに「こおどり（俗に雨山おどり）」と呼ばれる雨乞いのおどりが谷内の人々によって奉納されていたといいます。

この神社の神宮寺として正福寺がありましたが、中世の争乱期に衰微し廃絶しました。神社は1582年（天正10年）四月に中家一族の根来盛重によって再建され、江戸時代の正保年間（1644～47年）には熊取庄の総社となりました。神宮寺としてあつた金剛宝寺が明治維新の廃仏棄釈によって寺はなくなりました。

当社の宮座として営まれたものに、庄内を代表する有力な名主層の人々によって組織される熊取庄五四名座がありました。この宮座は、大正ごろになくなり、御輿の渡御も中止されましたが、古くは泉佐野市の湊まで御輿の渡御が行われて、この時の五四名座の人々は鳥帽子をかぶり馬に乗って奉仕したといわれます。

【公共施設】

・すまいるズ ひまわりドーム

久保にある熊取町総合体育館「ひまわりドーム」はUFOの円盤の形をしています。1,824m²あるメインアリーナをはじめ、サブアリーナ、トレーニング室、室内プール、会議室を備えています。町の成人式やくまとり太極拳フェスティバルなど多くのイベントが開催されます。



・野外活動ふれあい広場

多目的学習棟や炊飯棟、山や縁に囲まれた縁あふれた空間の中で自然体験ができる施設として、平成17年4月にオープンしました。自然を通じての豊富な題材によりハイキングやオリエンテーリングが楽しめ、バーベキュー やカレーづくりの貸出用具も充実しています。



野外活動ふれあい広場を運営されている、NPO法人グリーンパーク熊取は、ゲンジボタル観賞会や夏休みこども自然教室、しめ縄づくりなどのイベントも開催しています。また、「和田山 Berry Park」が2019年（令和元年）7月に隣接してオープンし、12種類のブルーベリーの木が植わり、令和2年よりブルーベリー狩りなどが楽しめるようになります。

・駅下にぎわい館（熊取町駅前観光案内所）

平成31年4月17日に、くまとりにぎわい観光協会の拠点としてリニューアルオープンした駅下にぎわい館。観光案内やレンタサイクル「メジチャリ」貸出、手荷物一時預かり、特産品販売の観光サービスの他に、熊取町図書館の本の貸出・返却や小型不燃ごみ回収、赤ちゃんの駅（授乳室）管理などの行政サービスも行っています。

駅下にぎわい館にはくまとりにぎわい観光協会の事務局があり、熊取方言カルタ大会やくまとりさんぽCOBIRIの日、くま観ウォークなど楽しいイベントの企画や運営を行っています。



・夢広場（モニュメント）

平成4年3月に夢広場（熊取駅前広場）の完成並びに来る21世紀に向け「ゆとりとうるおいのあるまちづくり」をめざし、熊取町制施行40周年を記念して、夢広場モニュメントが設置されました。

このモニュメントの基本デザインは住民の一般公募の中から選定されたもので、このデザインの主旨は、
○大きさの異なる三つのシンボルタワーにより構成し、小さいタ

ワーから『過去』、『現在』、『未来』を表す。

○タワーは、上部になるほど末広がりの形状として無限の可能性を表し、全体として熊取町の発展と躍進を象徴する。

○シンボルタワーに付属する12個のカリヨン（洋鐘）が時を告げ、ガス燈と共に夢広場を演出する。

となっています。



また、モニュメント設置に当たり熊取町制40周年記念事業実行委員会から住民参加の申し出があり、多くの住民の方々からの募金と未来に夢を託したメッセージが寄せられ、これらの募金名簿、メッセージについては、モニュメント基礎部のタイムカプセルに納入されましたが、令和3年の町制施行70周年事業としてメッセージを返却。同時に10年後（2031年）の町制施行80周年の際に開封するタイムカプセルを納入しました。

【イベント】

・くまとりロードレース

「全国水源の森百選」「大阪みどりの森百選」に指定された永楽ダム周辺の水とみどりに囲まれた美しい森と大阪体育大学の本格的な陸上競技場を走ります。

毎年3月第1日曜に開催されます。



・永楽桜まつり

P19に記載

・七夕 in 煉瓦館

夏の夜空のもと、七夕イベントが開催されます。当日は笹や折り紙を用意して、願いを込めた短冊などを作り、飾っていただけます。また、町立保育園の子どもたちが作った竹飾りの展示や模擬店などが出店しています。



・長池オアシス ハスまつり



平成22年に「全国ため池百選」に選定された長池オアシスでは、満開の40種類近くのハスの鑑賞と合わせ、ハス茶やはす酒、ハスの実せんざいなどが振舞われます。
この長池でしか見ることのできない長池妃蓮（新種）や愚白蓮などを間近で楽しむことができます。

・だんじり祭り

P19～21に記載

・くまとり太極拳フェスティバル

熊取町は「太極拳が盛んなまち」として幼児から高齢者まで太極拳やカンフーの愛好者が広まっています。平成13年度より始まった「くまとり太極拳フェスティバル」。当初は太極拳教室卒業生の成果発表の場としてスタートしましたが、今では町内で活動する30近いサークルが演武と音楽に工夫を凝らした発表をすることで、多くの方に見ていただける張り合いや他のサークルからの刺激を得て更なるレベルアップを目指す場となっています。



また、幼稚園児による元気なちびっ子カンフーの集団演武披露は会場の空気を和ませてくれます。

さらに冒頭の簡化24式太極拳の集団演武は来場された方々にも入っていただき、一緒にフェスティバルを盛り上げていただけるようになりました。

フェスティバルのクライマックスには世界レベルの模範演武が披露され、周辺府県からも太極拳の愛好者が集います。

・くまとりふれあい農業祭

12月の第一日曜に熊取中央小学校で開催される「くまとりふれあい農業祭」は熊取町とJA・商工会とのコラボレーション企画です。地元熊取産野菜の即売会や地元食材を使った料理販売、熊取コロッケ「くまコロ」やたこ焼きなどの模擬店やフリーマーケット、乗馬体験など内容盛りだくさんのイベントです。また、町の親善大使でもあるヒナタユウや零のコンサートも開催されます。くまとりにぎわい観光協会もオリジナルグッズの販売や「野菜預かり処」の運営で参加しています。



・煉瓦館イルミネーション

大阪ミュージアム事業の取り組みとして、冬の夜空の元、歴史的建造物である煉瓦館と



隣の中家住宅をLED電球やキャンドルなどの様々な光を使
うイルミネーションでライトアップする、冬の風物詩です。



・熊取方言カルタ取り大会

現在は、地方独特の方言が徐々に消えているようで、
ここ熊取でも昔からの熊取弁・泉州弁をしゃべるのは年配の方が多く、若いたちはもっぱら若干泉州
訛りのある関西弁をしゃべっているようです。そこで、くまとりにぎわい観光協会は、熊取言葉の継承
を願い「くまとり方言カルタ」を作成し、毎年「熊
取方言カルタ取り大会」を開催しています。特大のカルタを親子ペアで取りに走る人気
のイベントです。

・くまとり SANPO COBIRI の日



熊取町を散歩するように訪れていただき、お腹がすいたら、おいしいこびり（小屋：熊取弁でおやつの意味）を町内のお店でお買い求めいただく、散歩＆食べ歩きのイベントです。パンやスイーツ、和菓子など毎年30件近くの店舗が参加し開催されます。「スイーツのまち 熊取」の恒例イベントです。



【くまとり親善大使】

町の好感度や知名度向上のため、町の魅力を発信することを目的に「くまとり親善大使」を設置しました。

親善大使は、町にゆかりがあり、町に対する理解、関心、愛着及び熱意があり、それぞれの専門部門において活躍されている方の中で、町の魅力を発信することが出来る方を町長が任命します。

親善大使の方には、ご自身の活動における町の紹介・発信のほか、町が主催又は後援する事業などへの参加協力をいただいています。

氏名	分野
渡邊 俊哉	くまとりスポーツ大使
陳 静	くまとりスポーツ大使
室屋 成	くまとりスポーツ大使
村田 透	くまとりスポーツ大使
古宮 晴	くまとりスポーツ大使
切り文字作家 ジョジョすけ	くまとり観光大使
ヒナタユウ	くまとり PR 大使
零	くまとり PR 大使
喜多 修平	くまとり PR 大使

令和6年4月1日現在

【町のマスコット】

・マスコットキャラクター「ジャンプ君」

「ジャンプ君」は、熊取にちなんで“熊（くま）”をモチーフとしてデザインしています。元気で明るいジャンプ君が、文字通り未来に向かって大きく“ジャンプ”する姿を現しています。「ジャンプ君」はもともと町制施行35周年（昭和61年）記念事業のマスコットとして登場しましたが、平成8年に町内在住のデザイナーのご協力によりデザインを一新し、新しく誕生しました。



ジャンプ君

プロフィール

名前	ジャンプ君
性別	男の子
出身地	熊取町
誕生日	11月3日
年齢	人間でいうと10歳
性格	人なつっこく、陽気で明るい性格
好きなこと	多くの人と握手をすること
嫌いなこと	一人ぼっちになること
好きな食べ物	ごはん、水なす、熊取のスイーツ
その他	どうも「鳥」の友達がいるらしい・・・

- ・マスコットキャラクター「メジーナちゃん」
町の鳥「メジロ」をモチーフとしたマスコットキャラクターです。町制施行60周年（平成23年）を記念して選定されました。デザインは全国のみなさんから、愛称は町内在住の小・中学生から募集し、それぞれの選定委員会を経て決定しました。



プロフィール

名前	メジーナちゃん
性別	女の子
出身地	熊取町
誕生日	11月3日
年齢	人間でいうと5歳
性格	明るく好奇心旺盛。いろんなことに興味津々。
好きなこと	空を飛ぶこと。みんなと遊ぶこと。おしゃべり。
嫌いなこと	お天気が悪いこと。みんなに会えないこと。
好きな食べ物	梅の花の蜜。おいしく熟れた柿、みかん。
その他	どうも「熊」の友達がいるらしい・・・

【一般社団法人 くまとりにぎわい観光協会】



『元気な熊取町』を合言葉に、観光資源のさらなる活用を図りながら観光を軸とした地域活性化を図り、町内外の人々に熊取町の良さをPRするとともに、将来の熊取町を担う子供たちの郷土愛着へのきっかけづくりなど、にぎわい創出につながる事業に取り組む住民主体の組織として、平成24年9月2日に設立しました。

教育ガイド部会、企画事業部会、広報部会があり、楽しいイベントの企画・運営や駅下にぎわい館運営を行っています。

- ・主催イベント

くまとりさんぽ COBIRI の日

くまとり方言カルタ大会

熊取ええとこ再発見プログラム（観光ボランティア養成講座）

熊取検定・熊取子ども検定

くま観ウォーク

- ・マスコットキャラクター『ジャンプソンとメジナリアン-X』

熊取町出身で、劇場版コードギアス（復活のルルーシュ）のメインアニメーター、機動戦士ガンダムOOのメカニックデザイン、作画監督などで有名な中谷誠一氏とのコラボで生れた、くまとりにぎわい観光協会のマスコットキャラクターです。

ジャンプ君とメジーナちゃんの新しいお友達です。



【熊取方言】

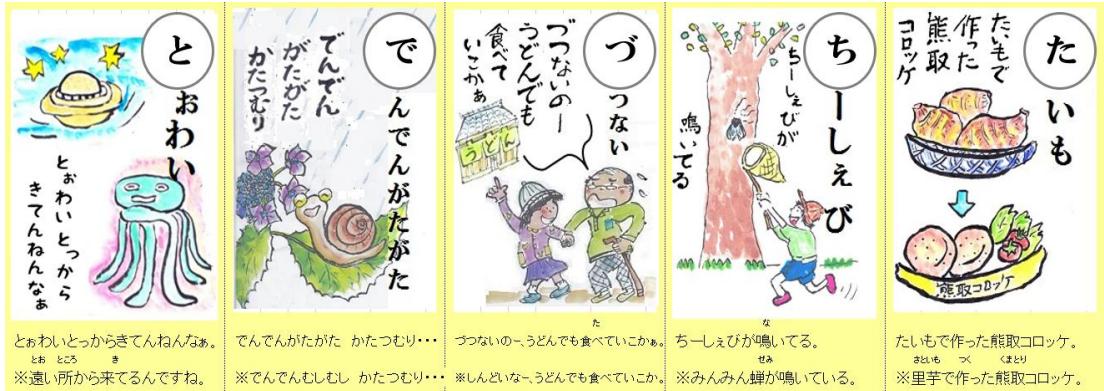
現在は、地方独特の方言が徐々に消えていっているようで、ここ熊取でも昔からの熊取弁・泉州弁をしゃべるのは年配の方が多く、若いたちは、若干泉州訛りの関西弁をしゃべっているようです。

また、地方を旅行すると、旅館やお土産店で、その土地の言葉で話しかけられた時には、思わず旅に来たものと実感するものです。そして旅館等に「〇〇地方の方言一覧」などのチラシが置いていたら、思わず見入ってしまいます。

このように、その地方の言葉（方言）は、旅の情緒を感じ、心を和ませてくれるまさに「魔法の杖」のようです。

くまとりにぎわい観光協会でも、文化の継承として、そして消えゆく方言を残そうとして「方言カルタ」を作成しました。







【熊取町ブランド認定品】

大阪府南部に位置し、美しい水と緑に囲まれた熊取町には品質に優れた農産物やこだわりに溢れる加工品が数多くあります。この「熊取らしい魅力」を備えた優れた产品を伝えていきたいという思いから「くまとりやもん♪」としてブランド認定する制度を創設しました。

ようこそ、熊取町へ！



新しく
9商品認定だよ！
(全61商品)

熊取ブランド創造会議



甘酸っぱさが爽やかなブルーベリー羊羹と季節のフルーツを飾り、しっとりシフォンケーキとカスタード、たっぷり生クリームが味わえるパフェです。

所在地 熊取町希望が丘3-6-23
連絡先 TEL.090-3929-5475
営業時間 10:30~17:00(売り切れ次第クローズ)
定休日 毎週土・水・木曜日
website bonheur.chiffoncake



④タルト of 和田山ブルーベリー (株)希望社会多機能型事業所 やさかバティスリー ル・ブルニエ



サックサクのタルトに弾けるブチブチ食感の和田山ブルーベリーをふんだんに盛り、当店自慢のカスタードと自家製和田山ブルーベリージャムを合わせました。
(期間限定:6月下旬~8月中旬まで)

所在地 熊取町大久保南3-1392-21
連絡先 TEL.072-453-2227
営業時間 10:00~18:00
定休日 毎週土曜日(臨時で営業する場合あり)
website www.yasakaen.com/le-prunier



⑥まるでパジャマ 松藤テリー



綿麻の糸を使いベタつかず、サラッとした肌触りのパジャマです。3シーズン着用でき、ホームウェアとしても活用できます。タオル屋の二重変わり縫りをお楽しみください。

所在地 熊取町大久保南2-27-14
連絡先 TEL.072-453-5545
営業時間 9:00~17:00
定休日 每週日曜日、祝日・会社規定日



⑧里芋デザイン本革コインケース mhd (マサカズホリデザイン)



熊取産里芋染めと染料プリントを本革に施して製作したストラップ付のコインケースです。リアルな里芋染めがかわいい3形状からお選びください。

所在地 オンライン販売 <https://www.mhd-japan.com/>
連絡先 TEL.072-442-2866
営業時間 オンラインストアまたは
定休日 インスタグラム情報をご参照ください。
website mhd_japan



①泉州YUMMY CURRY 株式会社アライヴ



熊取町の泉州たまねぎ・百花蜂蜜をたっぷり使用し、化学調味料などの添加物は使用せずに“大人も子どもも笑顔になれる”甘口カレーができました。

所在地 熊取町五門西1-12-8 井松ビル102号
連絡先 TEL.072-452-8600
営業時間 9:00~17:00
定休日 毎週土・日曜日、祝日、年末年始
website <https://alive-ins.co.jp/>



②欲張りベリーシフォンパフェ 幸せのシフォンBonheur(ボヌール)



ぜいたくな香りに包まれたブルーベリーアロマジャム、ヨーグルトにちょっと温め、クラッカーと一緒にいただくとティータイムが華やかに、暮らしに彩りを！

所在地 熊取町大字久保3162
連絡先 TEL.072-453-5556
営業時間 9月1日~6月30日 / 9:00~17:00 7月1日~8月31日 / 9:00~19:00
定休日 毎週火曜日(祝日の場合は翌日休業)
website <https://www.greenpark-kumatori.com/>



⑤Kumatsumugi Craft Beer Rice Ale 株式会社Grin Associates (グリンアソシエイツ)



熊取町のヒノヒカリを使用したRice IPA。熊取産ホップのほかにも4種類以上のホップを使用し、フルーティさの中に苦みを利かせたのど越しのよいクラフトビールです。

所在地 オンライン販売
(取扱店HummingFields/駅下にぎわい館)
連絡先 TEL.080-8914-3684 kumatsumugi@grins.jp
営業時間 9:00~18:00 定休日 なし
website <https://kumatsumugi.jp>



⑦匠の小函 熊取ブルーベリー 銘菓創庵 むか新 熊取店



ヨーグルト風味の浮島とブルーベリーの羊羹を合わせたお菓子です。相性がよいヨーグルトとブルーベリーの味、断面のコントラストをお楽しみください。

所在地 熊取町大久保中1-6-28
連絡先 TEL.072-452-0100
営業時間 9:00~19:00
定休日 毎週水曜日
website <https://info.mukashin.com/shop/kumatori/>



⑨ブルーベリーな焼き菓子 ハンス洋菓子店



熊取産の甘いブルーベリーを煮詰めてジャムにし、当店で根強い人気のしっとりパウンドケーキにたっぷりと練り込んだ焼き菓子です。

所在地 熊取町大久保中1-9-7
連絡先 TEL.072-451-0056
営業時間 9:30~19:00
定休日 年中無休
website <http://www.hans-youghashi.com>



①～⑨ 第7回認定品 ⑩～⑪ 第6回認定品 ⑫～⑬ 第5回認定品 ⑭～⑮ 第4回認定品 ⑯～⑰ 第3回認定品 ⑱～⑲ 第2回認定品 ⑳～㉑ 第1回認定品

⑩くまとりクレープ オ ブルーベリー crepe shop hinaafuto



全粒粉配合のクレープ生地と、熊取産ブルーベリー。それらが一体となって生まれるおいしさが心を満たしてくれる。何気ない日常に小さな幸せをお届けします。

所在地 熊取町船屋1-26-18
連絡先 TEL.070-8369-8779
営業時間 12:00～17:00
定休日 不定休
crepeshop_hinaafuto



⑪ベリーシュークラフト 幸せのシフォンBonheur(ボヌール)



熊取産ブルーベリーの素材に甘さを控えたジャム、酸感を感じるコンフィチュール、ブルブルのジェелеに仕立てたケーキは、三位一体の絶妙なハーモニーを楽しめる歓強なケーキです。ショーキーとモンブランクリームが、甘さのアクセントになっています。

所在地 熊取町希望が丘1-6-23
連絡先 TEL.090-3929-5475
営業時間 10:30～17:00
(売り切れ次第クローズ)
定休日 毎週日・水・木曜日
bonheur.chiffoncake



⑫熊取ORSO BAKE レモンケーキ Humming Fields



熊取町で栽培されているレモンを100%使用し、自家製レモンジャムを充填したメイドイン熊取レモンケーキです。

所在地 熊取町野田4-2037-3
連絡先 TEL.072-452-3040
営業時間 9:00～18:00
定休日 毎週月曜日
website <https://humming-fields.jp>



⑭御門・ショコラタルト パティスリーせんざん



産地の違うカカオ豆のチョコレートを選択し、蜂蜜を加え、全体をピターチョコレートでコーティングしました。五門の中家住宅の家紋をあしらいました。

所在地 熊取町大久保中1-1-29
連絡先 TEL.072-453-1003
営業時間 9:00～17:00
定休日 毎週月・火曜日
senzan.hirai



⑯くまとりブルーベリーブラウニン 和み



なめらかなブルーベリーブラウニンの上に蜂蜜ゼリー、さらにその上に、ブルーベリーソースと3つの味わいをお楽しみいただける華やかなブラウニンです。金の壺cafeさんとのコラボ商品です。

所在地 熊取町大字五門1259-7
連絡先 TEL.072-479-8021
営業時間 10:00～18:00
定休日 不定休
website <https://www.nagomi-net.com/>



⑮ブルーベリーフルーツサンド 織/まとい



ブルーベリーを優しく煮詰めて濃縮したブルーベリージャム、そして当店自慢のクリームチーズ入りのクリームがコラボした、何倍も食べたくなる濃厚で爽やかなフルーツサンドです。

所在地 熊取町大久保中1-16-18
連絡先 TEL.080-5770-2291
営業時間 10:30～12:30 16:30～18:30
火曜日・水曜日は営業(ただし、月曜日が祝日の場合は水曜日・木曜日が営業)



㉐coco chii ちびたくん 松藤テリー



四重ガーゼ織りに無撚糸をアレンジし、適度なボリュームでふわっと軽く仕上げました。タオルとしてはもちろんの事、マフラー・ひざ掛けにもお使いいただけます。

所在地 熊取町大久保南2-27-14
連絡先 TEL.072-453-5545
営業時間 9:00～17:00
定休日 毎週日曜日
祝日・金曜規定日



㉑ベリーシュークラフト 幸せのシフォンBonheur(ボヌール)



熊取産ブルーベリーの素材に甘さを控えたジャム、酸感を感じるコンフィチュール、ブルブルのジェелеに仕立てたケーキは、三位一体の絶妙なハーモニーを楽しめる歓強なケーキです。ショーキーとモンブランクリームが、甘さのアクセントになっています。

所在地 熊取町希望が丘1-6-23
連絡先 TEL.090-3929-5475
営業時間 10:30～17:00
(売り切れ次第クローズ)
定休日 毎週日・水・木曜日
bonheur.chiffoncake



㉒ベアベリータルト カフェ&クラフトスペース ほびっと



サクサク食感のタルト生地にアーモンドクリーム、熊取産ブルーベリージャムをのせた香ばしい焼き菓子です。熊取産のブルーベリーをぜひご賞味ください。

所在地 熊取町大久保北2-17-8
連絡先 TEL.072-425-3610
営業時間 木・金17:00～22:00
土・日・祝11:00～22:00
定休日 每週月・火・水曜日
Website <https://www.cafe-hobby-hito.com>



㉓フルーベリー コンポート NPO法人 グリーンパーク熊取



ブルーベリー狩りや生食販売でご好評を頂いた“味”をそのまま瓶に凝縮。一年中美味しさをご提供できる「フルーベリーコンポート」を発売しました。

所在地 熊取町大字久保3162
連絡先 TEL.072-453-5556
営業時間 9月1日～6月30日 9:00～17:00
7月1日～8月31日 9:00～19:00
定休日 每週火曜日(祝日の場合は翌日休業)
website <https://www.greenpark-kumatori.com/>



㉔ベイクドブルーベリーチーズタルト ルパンマディ



熊取産ブルーベリーを当店自慢の製法で作った手づくりジャムに、国産クリームチーズと合わせて、とても美味しいベイクドブルーベリーチーズタルトが出来上がりました。

所在地 熊取町大久保中1-16-12
連絡先 TEL.072-452-0604
営業時間 (月～金)9:00～19:00
(土)9:00～18:30
定休日 毎週日曜日、祝日
website <https://lepanmadit.com>



㉕くまとりブルーベリーポップコーン ファストフードLele



熊取町で生産したポップコーン用とうもろこしを100%使用し、熊取産ブルーベリーで作った当店オリジナルのジャムをコーティングしたポップコーンです。

所在地 熊取町小畠内1-10-19
連絡先 TEL.090-3925-8066
営業時間 11:00～15:00(土曜日14:00)
定休日 日・祝日・年末年始(12月30～1月3日)、
盆休み(8月13～15日)
lele_workingbjump



㉖Kumatsumugi Craft Beer Berry Ale 股鉄社Grim Associates(グリンアソシエイツ)



和田山のブルーベリーと熊取産ホップを使用し、ブルーベリー本来の甘みとほのかな酸味をマッチさせたペールエール。Dry02(低アルコール)とSour03の2種類をご用意。料理とマリージュさせ、ビールが苦手な方でもスッキリ飲める商品です。

所在地 オンライン販売
(取扱店HummingFields/販下にぎわい館)
連絡先 TEL.080-9194-3684 kumatsumugi@grims.jp
営業時間 9:00～18:00 定休日 なし
website <https://kumatsumugi.jp>



㉑和田山ブルーベリージェラート Humming Fields (ニド・ジェラート)



ボリュームを多く含んだ獲取産の和田山ベリーを使用したジャムを使って、ジェラートを作りました。ソルベとヨーグルトの二種をご用意しています。獲取産の爽やかな酸味のあるレモンも使用しており、ブルーベリーの甘さとレモンの酸味が重なり合います。

所在地 熊取町野田4-2037-3

連絡先 TEL.072-452-3040

営業時間 9:00~18:00

ジェラートは11:00~17:00

定休日 月曜日(冬期休業あり)

website <https://humming-fields.jp>

㉒ブルーベリーレザーコンパクト財布 mhd (マサカズホリデザイン)



廃棄分の熊取産ブルーベリーから天然染料を製作し、独自の手法でブルーベリー染めした本革で製作したコンパクト財布です。



所在地 オンライン販売 <http://www.mhd-japan.com/>

連絡先 TEL.072-442-2866

営業時間 オンラインストアまたはインスタ

定休日 グラム情報をご参照ください。

website [mhd_japan](#)

㉓ブルーベリーシュー 幸せのシフォンBonheur(ボヌール)



厳選卵のカスタード、コクのある生クリーム、熊取産ブルーベリーと、旨みを凝縮したソースの入った欲張りショートケーキです。



所在地 熊取町希望が丘3-6-23

連絡先 TEL.090-3929-5475

営業時間 10:30~17:00(売り切れ次第クローズ)

定休日 毎週日・水・木曜日

website <https://bonheur.chiffoncake>

㉔農園与助のみずなす漬 農園与助



自家産の水なすを厳選し、ぬか床には煙や昆布・干し椎茸など天然素材のみを使用し、丁寧に漬け込みました。熊取町の風土や伝統、食文化を感じていただけの一品です。



所在地 熊取町五門西1-9-5

連絡先 TEL.090-3492-2640

営業時間 お電話またはホームページをご参照ください。

website <https://nouenyosuke.stores.jp>

㉕くまとり欲張りチーズケーキ 幸せのシフォンBonheur(ボヌール)



ベイクドチーズタルトの上に熊取町のブルーベリーをジュレで囲めたレア・チーズケーキは、2重の美味しさが楽しめます。(季節限定)



所在地 熊取町希望が丘3-6-23

連絡先 TEL.090-3929-5475

営業時間 10:30~17:00(売り切れ次第クローズ)

定休日 毎週日・水・木曜日

website <https://bonheur.chiffoncake>

㉖熊取産 ブルーベリー NPO法人 グリーンパーク熊取



豊かな熊取町で栽培し、収穫されたブルーベリーです。熊取町の新しい名物をめざし栽培したラビットアイ系のブルーベリー約15種類の新鮮な味が楽しめます。



所在地 熊取町大字久保3162

連絡先 TEL.072-453-5556

営業時間 9月1日~6月30日 9:00~17:00

7月1日~8月31日 9:00~19:00

定休日 毎週火曜日(振日の場合は翌日休業)

website <https://www.greenpark-kumatori.com/>

㉗ブルーベリーのレアチーズタルト バティスリーセンザン



レアチーズと、ブチブチとした食感や爽やかな酸味のあるブルーベリーは相性抜群です。(季節限定)



所在地 熊取町大久保中1-1-29

連絡先 TEL.072-453-1003

営業時間 9:00~17:00

定休日 每週月・火曜日

website [senzan.hirai](#)

㉘ブルーベリーレザーコンパクト財布 mhd (マサカズホリデザイン)



廃棄分の熊取産ブルーベリーから天然染料を製作し、独自の手法でブルーベリー染めした本革で製作したコンパクト財布です。



所在地 オンライン販売 <http://www.mhd-japan.com/>

連絡先 TEL.072-442-2866

営業時間 オンラインストアまたはインスタ

定休日 グラム情報をご参照ください。

website [mhd_japan](#)

㉙くまとりケーキ オベリー バティスリーセンザン



熊取産ブルーベリーで「くまとりやもん」にこだわり、四回目に挑んでロールケーキを作りました。九州産のあっさりした生クリームとのマリアージュもお楽しみください。



所在地 熊取町大久保中1-1-29

連絡先 TEL.072-453-1003

営業時間 9:00~17:00

定休日 毎週月・火曜日

website [senzan.hirai](#)

㉚大阪泉州産 里芋 大阪泉州農業協同組合 熊取営農店舗



なにわ特産の一品であり、伝統的に優れた技術で栽培し、町内でまとまつた生産量を確保しています。食感がもちもちとして美味しい食材です。



所在地 熊取町野田2-25-13

連絡先 TEL.072-452-5252

営業時間 9:00~17:00

定休日 毎週土・日曜日と祝日

㉛ブルーベリークッキーサンド バティスリーセンザン



サクっとした食感を出すために、もなか生地を使い、熊取町で収穫されたブルーベリーと口どけの良いクリームを合わせた和洋菓子のクッキーサンドです。(季節限定)



所在地 熊取町大久保中1-1-29

連絡先 TEL.072-453-1003

営業時間 9:00~17:00

定休日 每週月・火曜日

website [senzan.hirai](#)

㉜W Premier Towel 株式会社W



泉州の技術力と、究極の肌触りと吸水力を持つスビーマコットンを使用した泉州タオルの中でも最高級のタオルです。



所在地 熊取町野田2-9-1

連絡先 TEL.06-7178-3168

営業時間 10:00~18:00

定休日 每週土・日曜日と祝日

㉝ブルーベリーシフォンケーキ カフェ aloha mai



熊取産の新鮮な生ブルーベリーを使用したシフォンケーキです。爽やかな甘さとほのかな酸味が特徴です。(季節限定)



所在地 熊取町久保1-5-12

連絡先 TEL.072-493-7756

営業時間 9:00~17:00

定休日 毎週月曜日

①～③第7回認定品 ④～珍賞6回認定品 ⑤～珍賞5回認定品 ⑥～珍賞4回認定品 ⑦～珍賞3回認定品 ⑧～珍賞2回認定品 ⑨～珍賞1回認定品

⑭くまとり欲張りシフォンサンド 幸せのシフォンBonheur(ボヌール)



ふわふわしっとりシフォンケーキに三種類のクリームと熊取産ブルーベリーなど、フレッシュフルーツを飾った美味しい欲張り「シフォンサンド」です。
(季節限定)

所在地 熊取町希望が丘3-6-23
連絡先 TEL.090-3929-5475
営業時間 10:30～17:00(売り切れ次第クローズ)
定休日 毎週日・水・木曜日
website bonheur.chiffoncake



⑮辣王の玉葱入り牛タン焼壳 四川火鍋 辣王



「地元、熊取の玉葱が世界一！」その思いを焼壳の中に包みました。お客様の心が豊かになるおススメの逸品です！

所在地 熊取町朝代東2-7-1
連絡先 TEL.072-457-2230
営業時間 ランチ 11:30～(完全予約制)
ディナー 18:00～(ご予約に合わせて対応)
定休日 不定期



⑯大阪くまとりの生はちみつ唐揚げ 株式会社BIGUP JAPAN



熊取産はちみつを使用した醤油ベースで漬け込んだ、ジューシーさと食欲をそそる香りが特徴の唐揚げです。

所在地 キッチンカー(移動店舗)
連絡先 TEL.072-447-7878
営業時間 10:00～17:00
定休日 なし
website <http://www.bigup-japan.jp/>



⑰くまとり餃子 ぎょーざやさん



熊取産の舞茸をたくさん使用。新鮮な香りと食感がクセになり、子どもからお年寄りまで食べやすい、やさしい餃子が完成しました！

所在地 熊取町大久保中2-4-7
連絡先 TEL.072-453-4444
営業時間 11:30～22:30(0.02:00)
定休日 毎週月曜日
website <https://gyozayasan.jp/>

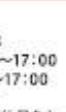


⑱くまとり柿チップス おおよ工房



熊取町内で自家栽培した柿を使用しています。無添加で自然な甘さなので、お子様からお年寄りまでお楽しみいただけます。

所在地 熊取町和田2-17-25
連絡先 TEL・FAX.072-452-0408
営業時間 ショップひまわり 10:00～17:00
無人販売機 9:00～17:00
定休日 ショップひまわり 水曜日
無人販売機 基本定休日なし



⑲竹文鎮 つり竿のタケ・ササ 竹基工房



現在日本国内で育っている竹類の中から珍しい素材を選び、暮らしに役立つ竹の入れ物を作っています。

所在地 熊取町久保3-3-18
連絡先 TEL.090-4762-7050
営業時間 10:00～17:00
定休日 毎週月曜日(竹探し日は臨時あり)
website <http://www.takesagasi.com/>



⑳烏賊虎の自然薯入りいか焼き 烏賊虎



熊取産の自然薯を使った「烏賊虎の自然薯入りいか焼き」です。滋養強壮、疲労回復！もちもち食感を是非ご賞味くださいませ。

所在地 キッチンカー(移動店舗)
連絡先 TEL.080-5635-5210
営業時間 10:00～18:00頃
定休日 不定期
website ikatora1989



㉑里芋ゴロゴロお好み焼き お好み焼き・鉄板焼 jijibaba



生地や具材に熊取の里芋をたっぷりと使用した、熊取ならではのふわふわでコクのある絶品お好み焼きです！

所在地 熊取町大久保北2-18-26
連絡先 TEL.072-453-9119
営業時間 17:00～23:00(0.02:00)
定休日 毎週月曜日
(祝日は営業、翌火曜日が休日)



㉒ハニーバタービスケット wood village



ミルクベースに柴田養蜂場様のハチミツ、焦がしバター、ビスケットを加入了、卵不使用の優しい甘さのアイスクリームです。

所在地 キッチンカー(移動店舗)
連絡先 TEL.050-3702-9597
営業時間 12:00～18:00
定休日 不定期(冬の間はネット販売のみ)
website woodvillageicecream

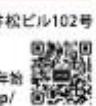


㉓KUMATORI ORIGINAL CURRY 株式会社アライヴ



熊取産泉州たまねぎ・百花蜂蜜・厳選したスパイスを使用した、美味しい身体の内側から綺麗になれる薬膳カレーをぜひご賞味ください。

所在地 熊取町五門西1-12-8 井松ビル102号
連絡先 TEL.072-452-8600
営業時間 9:00～17:00
定休日 毎週土・日曜日、祝日、年末年始
website <https://alive-ins.co.jp/>



㉔くまとりはちみつかステラ 銘菓創園 北泉



熊取産のはちみつを使用した、たんわりと焼き上げました。しっとり感がとても強く、一度食べるとハマること間違いなしです!!

所在地 熊取町大久保北2-20-7
連絡先 TEL.072-452-5270
営業時間 9:00～18:00
定休日 毎週火曜日
銘菓創園北泉



㉕泉州こだわりタオル 錦 松藤テリー



買って好！使って好。熊取生まれの作り手が作る喜びをタオルに込め完成させたのが「麗」です。
多くの方々から高く評価されています。

所在地 熊取町大久保南2-27-14
連絡先 TEL.072-453-5545
営業時間 9:00～17:00
定休日 毎週日曜日
祝日・会社規定日



④6はちみつジャンプ君 (株)弥栄福祉会多機能型事業所 やさか パティスリー・ブルニエ



地元熊取で生産されたハチミツを贅沢に使用して相性の良いレモンと合わせた見た目も可愛い焼き菓子です。

所在地 熊取町大久保南3-1392-21
連絡先 TEL.072-453-2227
営業時間 10:00~18:00
定休日 毎週土曜日(臨時で営業する場合あり)
website www.yasakaen.com/le-prunier

④7里芋団子 里の菓 銘菓創庵 むか新 熊取店



熊取産の里芋を加工し、こし餡と薯蕷生地で包餡しました。里芋を表現した秋の生菓子でございます。

所在地 熊取町大久保中1-6-28
連絡先 TEL.072-452-0100
営業時間 9:00~19:00
定休日 毎週水曜日
website <https://info.mukashin.com/shop/kumatori/>

④8KUMATORI BLEND BEARCOFFEE



自然豊かで、人と人との優しさがある熊取町をイメージしたブレンド。口当たりの優しさ、山々の香りを感じるコーヒーに仕上げました。

所在地 熊取町野田1-5-5
連絡先 TEL.072-424-3239
営業時間 10:00~17:00
定休日 毎週水・日曜日
website <https://www.bear-coffee.com>

④9泉州こだわりタオル「コットンベビー」 松藤テリー



赤ちゃん用として作るタオルは優しさが伝わり、お母さんも共に喜びを感じられることが一番です。そうしたこだわりからの逸品です。

所在地 熊取町大久保南2-27-14
連絡先 TEL.072-453-5545
営業時間 9:00~17:00
定休日 毎週日曜日
祝日・会社規定日

④10さといもココアのシフォンケーキ カフェ aloha mai



熊取産のさといもを使ったシフォンケーキです。もちもち食感と自然な甘さでコーヒーによく合います。

所在地 熊取町久保1-5-12
連絡先 TEL.072-493-7756
営業時間 9:00~17:00
定休日 毎週月曜日

④11熊取ビール ぎょーざやさん



ついに!! 完成!! 熊取、柴田養蜂場様の貴重なハチミツ入り。甘さは抑えつつ香りが華やかなハニーエール。

所在地 熊取町大久保中2-4-7
連絡先 TEL.072-453-4444
営業時間 11:30~22:30(LO.22:00)
定休日 毎週月曜日
website <https://gyozayasan.jp/>

④12竹のつり竿 つり竿のタケ・ササ 竹基工房



日本では昔から竹類を上手く工夫して暮らしに利用してきました。魚を釣る道具もその代表のひとつです。

所在地 熊取町久保3-3-18
連絡先 TEL.090-4762-7050
営業時間 10:00~17:00
定休日 每週月曜日(竹探し日は臨休あり)
website <http://www.takesagasi.com/>

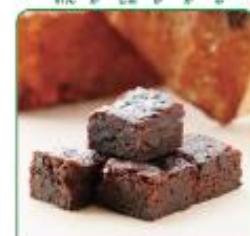
④13はっちく・筍水煮 おおや工房



自家農園で収穫した熊取産のはっちく筍のみを使用した水煮です。孟宗竹とは違うシャキシャキとした食感をお楽しみいただけます。

所在地 熊取町和田2-17-25
連絡先 TEL・FAX.072-452-0408
営業時間 ショップひまわり 10:00~17:00
無人販売機 9:00~17:00
ショップひまわり 水曜日
無人販売機 基本定休日なし

④14焼瓦塩加加阿クリッキー パティスリーせんざん



フランス、ゲランドの塩とチョコレートの新しい食感です。

所在地 熊取町大久保中1-1-29
連絡先 TEL.072-453-1003
営業時間 9:00~17:00
定休日 毎週月・火曜日
website senzan.hirai

④15酒ケーキ 銘菓創園 北泉



純白のカステラ生地に純米吟醸酒をしみこませじっくり時間をかけて焼き上げた大納言小豆をサンドした上品な口あたりのお菓子です。

所在地 熊取町大久保北2-20-7
連絡先 TEL.072-452-5270
営業時間 9:00~18:00
定休日 毎週火曜日
銘菓創園北泉

④16どつち餅 パティスリーせんざん



洋風生地の中に大納言小豆あんと求肥餅をはさんだお菓子です。和菓子、洋菓子のどっち?、という事でどつち餅になりました。

所在地 熊取町大久保中1-1-29
連絡先 TEL.072-453-1003
営業時間 9:00~17:00
定休日 毎週月・火曜日
website senzan.hirai

①～③第7回認定品 ④～⑥第6回認定品 ⑦～⑨第5回認定品 ⑩～⑪第4回認定品 ⑫～⑯第3回認定品 ⑰～⑲第2回認定品 ⑳～㉑第1回認定品

⑮大阪府産 なまハチミツ 柴田養蜂場(Bee Smile)



熊取をはじめとする泉州の山々で収穫した百花はちみつを、その日のうちに瓶詰めした、完全非加熱の貴重な「なまハチミツ」です。

所在地 熊取町南山の手台13-15
連絡先 TEL.072-453-6698
営業時間 お電話またはホームページをご参照ください。
定休日 右電話またはホームページをご参照ください。
website <http://shibata-youhou.com>
beesmile_shibatayouhou



㉑南川さん家の水ナス浅漬け 南川食料品店



皮が薄く柔らかい泉州産の水なすを一つづいていねいに塩でもみ、無添加のぬか床に漬けています。浅漬けでも古漬けでも楽しんでください。

所在地 熊取町小谷南3-10-2
連絡先 TEL.072-453-1235
営業時間 8:00～17:00
定休日 毎週日曜日

⑯熊取コロパン ルパンマディ



熊取コロッケ「くまコロ」を当店自慢のパン生地で包み、自家製生パン粉をつけてカリッとあげました。

所在地 熊取町大久保中1-16-12
連絡先 TEL.072-452-0604
営業時間 (月～金)9:00～19:00
(土)9:00～18:30
定休日 毎週日曜日、祝日
website <https://lbpainmadit.com>

㉒あんころいも cafe & zakka sora



熊取産の里いもをつぶして、小豆あんをからめ、ゴマをまぶしました。とても柔らかいので老若男女問わず食べいただけます。

所在地 熊取町成合東173
連絡先 TEL.090-2047-0416
営業時間 11:00～16:00(ランチ11:30～14:30)
定休日 每週土・日・月曜日、祝日
cafezakkasora



【熊取世間遺産】

世界遺産や指定文化財ほどではなくとも、わたしたちの身边にはまだまだ遺産として残したい珍しいもの、地域特有の希少なものなどがたくさんあります。それが「世間遺産」です。

熊取町にも多くの観光スポットがありますが、きっとまだこの町内には発見しきれていない、とっておきの人やもの、風景があるはず！住人には当たり前の風景も、町外の人から見たら珍しいかも・・・？

そんな熊取町でまだ見つけられていない「世間遺産」を「熊取世間遺産」と命名し、熊取町の財産として受け継いでいきます。

・爽神堂のお寺

1573年（天正元年）に本多十助が七山の地に淨仙坊を開創。織田信長によって焼き払われた後、十助の子、本多左内（法名：義風）が寺号を淨見寺として再興。境内に現在の七山病院の前身、医療施設「爽神堂」を創設した。

江戸時代には、入院施設を備え、漢方や針灸を用いて精神障がい者の治療を行っていました。明治維新に際し、西洋医学を率先して導入、わが国最初の精神科専門の病院免許を取得しました。



・熊取図書館のピアノ

世界的に有名な「グロトリアン・シュタインヴェッヒ社」(ドイツ)の製作で、昭和4年に、旧熊取尋常高等小学校の講堂落成を祝い、当時熊取村の村長であった義本一氏から寄贈された、日本では数少ないピアノです。

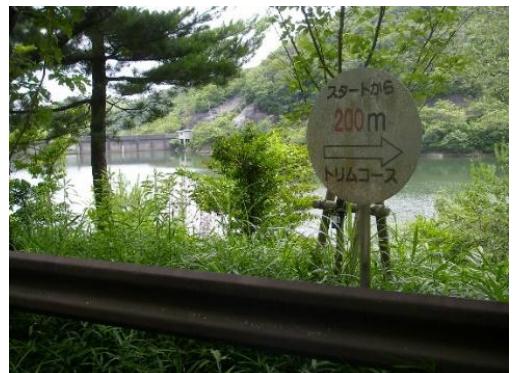


長年小学校の行事などで活躍するも昭和43年に傷みにより使用されなくなり、その後は、忘れられた存在として中央小学校の倉庫で眠っていましたが、20年以上の時を経て、平成3年に熊取町町制施行40周年記念事業の一環として復元され、平成6年に開館した図書館のホールに設置されました。このピアノの特徴である中高音の澄んだ音色が美しく響くよう、大きさや内装が設計された図書館ホールにおいて、現在もコンサートなどで、その素晴らしい音色を聴かせてくれています。

・やっほ～ポイント

春は桜の名所として多くの方が訪れる永楽ダム。トリムコーススタートから200mの地点でダムに向かって「やっほ～」と叫んでみてください。やまびこならぬ「ダムびこ」、声がこだまするポイントがあります。

子どもはもちろん、大人も童心に返り大きな声を出してリフレッシュしてみませんか



・横山音頭の音頭取り 河合一良

熊取町内の盆踊りにはなくてはならない人。

伝承文化の継承を担って、ご家族で音頭取りから囃子までお一人お一人に伝えておられる河合さん。熊取町以外の地域からも音頭の依頼を受けておられ、毎年開催される泉佐野市新川家での催しでも活躍されている。熊取町公民館講座でも毎年「伝承横山音頭講座」を開講され、受講生の方が町民文化祭では受講の成果を披露され、お弟子さんもたくさん輩出している。

日本文化の代表「畠」河合畠店の店主でもあり、35歳からは全関西郷土民謡協会の理事も務めておられ、公民館クラブでも民謡ファンを育成。泉州の文化伝承の懐刀的存在である。



参考文献

「熊取の歴史」 熊取町・熊取町教育委員会
「熊取の民俗」 熊取町教育委員会
「熊取町史 本文編」 熊取町
水間鉄道50周年記念社史「水間鉄道50年の歩み」
阪南新聞
南海朝日新聞
和歌山新聞
泉州情報
鉄道ジャーナル

参考資料

「熊取町」ホームページ
「くまとりにぎわい観光協会」ホームページ

2020年10月31日 発行

2021年 5月23日 一部修正

2024年12月 1日 一部修正

2025年 1月20日 一部修正